

北陸電力グループの現状 2016

目次

社長メッセージ	1
北陸電力 会社概要	3
特集 1 志賀原子力発電所の早期再稼働 および安全・安定運転に向けた取組み	4
特集 2 電力の安定供給の確保に向けて	13
特集 3 競争力を高める	19
安全文化の取組み 隠さない風土と安全文化の深化	22
環境保全への積極的な取組み グループ一体となった環境保全の取組み	24
低廉で良質な商品サービスの提供 お客様の声を大切に お客様のお役に立つ情報の発信	25
地域社会との共生 地域と共に歩む 教育活動をサポート 原子力の情報公開	27
人権の尊重と良好な職場環境の確保 働きやすい職場づくり	29
業績・財務ハイライト 収支状況／電気料金	30

「北陸電力グループの現状2016」は、「北陸電力グループCSRレポート2016」(2016年7月発行)を要約してご紹介しています。より詳細な情報は、北陸電力ホームページ(<http://www.rikuden.co.jp/csr/>)をご覧ください。お問い合わせは、経営企画部または地域広報部までご連絡ください。



本年4月から小売全面自由化がスタートし、2020年4月からは送配電部門の法的分離が予定される等、当社グループを取り巻く経営環境は大きく変化しています。一方、志賀原子力発電所の停止による厳しい電力需給や収支状況が続いており、当社グループは、この状況に対処すべく諸課題に果敢に取り組み、お客様に「低廉で良質なエネルギーを安定的にお届けする」という社会的使命を果たしてまいります。

そして、一人ひとりが当社グループのCSRの理念や行動指針を踏まえた取組みを着実に実施していくことにより、皆さまから「信頼され選択される北陸電力グループ」を目指してまいります。

志賀原子力発電所の早期再稼働の実現を目指してまいります

お客様に低廉で良質なエネルギーを安定的にお届けし、地域社会、株主・投資家、取引先など皆さまのご期待にお応えしていくためには、志賀原子力発電所の早期再稼働が不可欠です。

敷地内シームに関しましては、新規規制基準適合性確認審査の場で、当社の調査結果を科学的・合理的にご説明し、再稼働のステップを着実に進められるよう努めてまいります。

また、志賀原子力発電所の安全性向上工事については、現在、より一層の安全性向上を図る観点から工事内容を充実させ実施しているところであり、今後も工事を安全・確実に進めてまいります。

「低廉で良質なエネルギーを安定的にお届けする」という社会的使命を果たし、皆さまから「信頼され選択される北陸電力グループ」を目指します

そして、志賀原子力発電所の安全性について、地域の皆さまに丁寧にご説明しご理解をいただき、早期再稼働の実現を目指してまいります。

電力の安定供給を確保してまいります

原子力の停止により水力・火力発電所の高稼働が続いていますが、引き続き、補修時期の調整等の可能な限りの対策を講じることにより、安定した電力をお届けできるよう最大限努力してまいります。

また、中長期的な電力の安定供給と電源の一層の低炭素化に向け、富山新港火力発電所LNG1号機の建設を進めており、2018年度に運転を開始する予定であります。さらに、水力発電電力量の拡大に向けては、新たな目標を掲げ、設備改修等の取組みを着実に積み重ねてまいります。

一方、高度成長期に施設した設備の更新工事が今後ピークを迎えます。長期的な更新計画の平準化や人材・施工体制の確保に努め、設備の機能維持を図り、安定供給の確保に努めてまいります。

お客様のニーズによりの確にお応えしてまいります

小売全面自由化による競争環境下においても、お客様から引き続き当社を選択いただけるよう、安全最優先を前提とした経営効率化に最大限取り組み、可能な限り現行料金水準の維持に努めてまいります。

また、新たな電気料金メニューや、「ほくリンク」をはじめと

するサービスの拡充など、お客様のニーズに、よりの確にお応えしていきます。

さらに、電気とLNG販売を組み合わせたトータル営業によりお客様の最適なエネルギーのご利用をお手伝いするなど、当社グループが保有する経営資源を最大限活用し、総合エネルギー事業を展開してまいります。

皆さまから信頼いただく取組みを進めてまいります

当社は、北陸地域の後押しを受けて設立された会社であり、1951年5月の創立以来、電気事業を通じて地域社会の発展に貢献するという思いを脈々と受け継いでおります。今後も、当社存立の基盤である北陸地域に根差し、皆さまから「信頼」され「安心」いただき、選択される会社であり続けたいと考えております。

これからも、全ての業務・取組みにおいて安全を最優先するとともに、コンプライアンスと公正な取引を徹底してまいります。そして地域の皆さまとの双方向の対話活動や、環境保全に向けた活動等を継続的に実施し、皆さまから信頼いただけるよう努めてまいります。

当社グループは、今後も一人ひとりが皆さまの声に真摯に耳を傾け、CSR経営を実践してまいります。

北陸電力株式会社
代表取締役社長 社長執行役員



- 商号 北陸電力株式会社
(Hokuriku Electric Power Company)
- 本店所在地 〒930-8686 富山県富山市牛島町15番1号
電話 (076) 441-2511 (代表)
ホームページ: <http://www.rikuden.co.jp>
- 設立 1951年5月1日
- 資本金 117,641百万円
- 代表者 代表取締役社長 社長執行役員 金井 豊
- 主な事業 電気事業

■ 主な事業所

- 富山支店 〒930-0858 富山県富山市牛島町13番15号
- 高岡支社 〒933-0057 富山県高岡市広小路7番15号
- 魚津支社 〒937-0801 富山県魚津市新金屋1丁目12番12号
- 石川支店 〒920-0993 石川県金沢市下本多町六番丁11番地
- 七尾支社 〒926-8585 石川県七尾市三島町61-7
- 小松支社 〒923-0934 石川県小松市栄町25-1
- 福井支店 〒910-8565 福井県福井市日之出1丁目4番1号
- 丹南支社 〒915-0883 福井県越前市新町10字東野末1-6
- 東京支社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目8番1号
虎の門電気ビル6階

■ 供給設備の概要 (2016年3月31日現在)



■ 設備概要等 (2015年度または2016年3月31日現在)

総資産※1	1,509,393百万円 (1,458,977百万円)		
売上高※1	544,568百万円 (494,180百万円)		
経常利益※1	28,041百万円 (18,992百万円)		
当期純利益※2	12,891百万円 (8,723百万円)		
発電設備	発電所数	出力	
	水力	131か所	1,921kW
	火力	6か所	4,400kW
	原子力	1か所	1,746kW※3
	新エネルギー	6か所	8kW
合計	144か所	8,074kW※4	
送電設備	架空	地中	
	送電線長	3,175km	139km
変電設備	変電所数	出力	
		202か所	31,033千kVA
配電設備	架空	地中	
	配電線路長	41,871km	1,393km
販売電力量	電灯	電力	
		8,102百万kWh	19,416百万kWh
合計	27,518百万kWh		
お客さま数※5	電灯	電力	
		1,908千口	220千口
合計	2,128千口		

(注) ※1 数字は連結。()内は個別。 ※2 連結は「親会社株主に帰属する当期純利益」。 ※3 志賀2号機において、整流板を設置して運転の場合。
※4 四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。 ※5 特定規模以外。

志賀原子力発電所の早期再稼働 および安全・安定運転に向けた取り組み

志賀原子力発電所敷地内 シーム問題に対する的確な対応

北陸電力 志賀原子力発電所の敷地内シームの評価については、原子力規制委員会の有識者会合において、2014年2月より2年余りにわたり議論が行われてきましたが、2016年4月、同会合から原子力規制委員会に評価書が報告され受理されました。

評価書では、「今回の評価は限られた資料やデータに基づいて行われており、より正確・確実な評価をするためには更なるデータの拡充が必要」として、6項目の「今後の課題」(6ページ参照)が示されました。

志賀原子力発電所の安全性については、この評価書を参考の位置付けとして、新規基準への適合性確認審査の場で改めて審議されることになります。

北陸電力は、同審査において、これまでの調査結果に加え、追加調査等により得られた地質データ等を丁寧に説明してまいります。また、評価書に記載されている「今後の課題」に対しても、原子力規制委員会の審査において、適切に対応することにより、北陸電力の「敷地内シームは将来活動する可能性のある断層等ではない」との評価の妥当性を必ずやご理解いただけるものと考えています。



トレンチ調査の様子



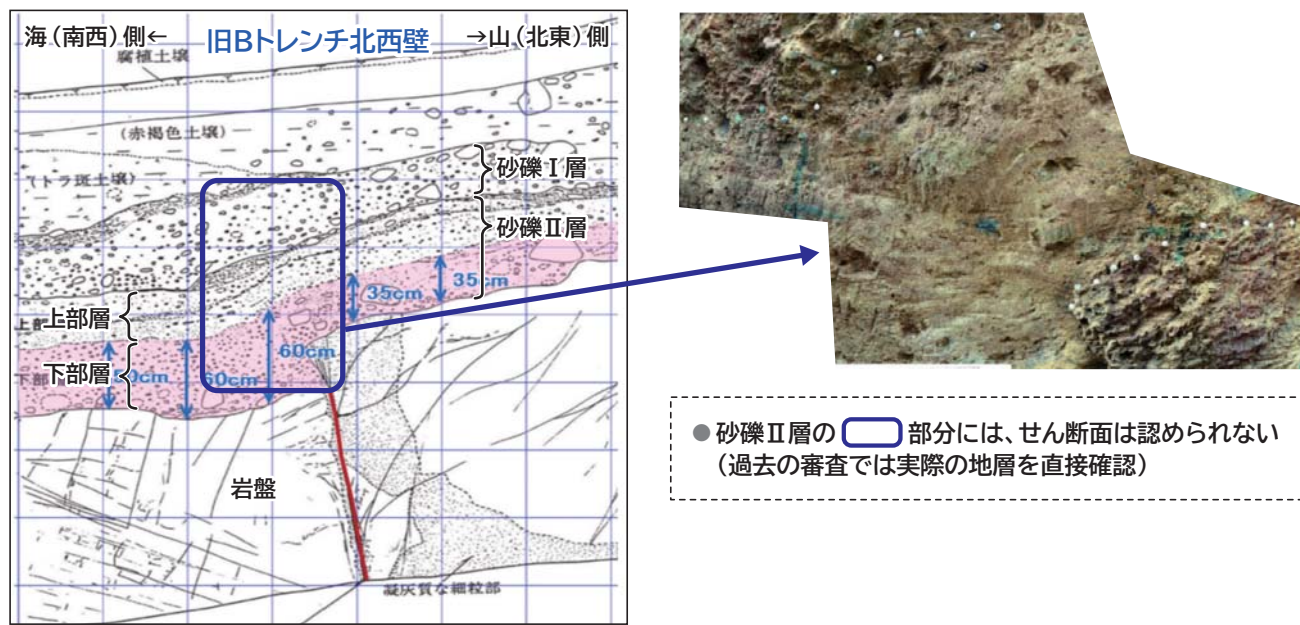
岩盤調査坑(横坑)

■ 敷地内シーム問題に関するこれまでの経緯

年月/会合	主な対応
〈2014年2月〜〉 有識者会合で審議	<ul style="list-style-type: none"> ● 有識者の指摘に対し北陸電力は追加調査等を実施し、報告・説明 ● 第6回評価会合以降、有識者のみで議論
〈2015年7月〉 第7回評価会合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価書案の提示 <ul style="list-style-type: none"> － 後期更新世以降に活動した明確な根拠は見いだせないが、変位・変形が生じた可能性は否定できない旨の結論
〈2015年11月〉 ピア・レビュー会合	<ul style="list-style-type: none"> ● レビューアから疑問や異論等、評価の根幹にかかわる複数のコメントが出される
〈2016年1月〉 原子力規制委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● ピア・レビュー会合を受け、田中委員長は重要なコメントが出されたとし、石渡委員は年度内をめどに再度の評価会合開催の意向を表明
〈2016年3月〉 第8回評価会合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価書案の議論 <ul style="list-style-type: none"> － 評価の根幹にかかわるピア・レビューアの重要なコメントが結果的に反映されず － スケッチ等の限られた情報や仮定に基づく評価で、活動性を認める旨の結論
〈2016年4月〉 原子力規制委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 有識者会合による評価書が報告・受理 <ul style="list-style-type: none"> － 評価書に「今後の課題」が記載
〈2016年6月〉 新規基準への 適合性確認審査	<ul style="list-style-type: none"> ● 北陸電力が、敷地内シームの評価概要と有識者会合の評価書に示された「今後の課題」等のデータ拡充について説明 ● 原子力規制委員会・原子力規制庁から、今後の詳細説明の際には、判断の根拠やそのバックデータを提示してほしい旨のコメントが出され、資料が準備でき次第、今後審査していくとされた

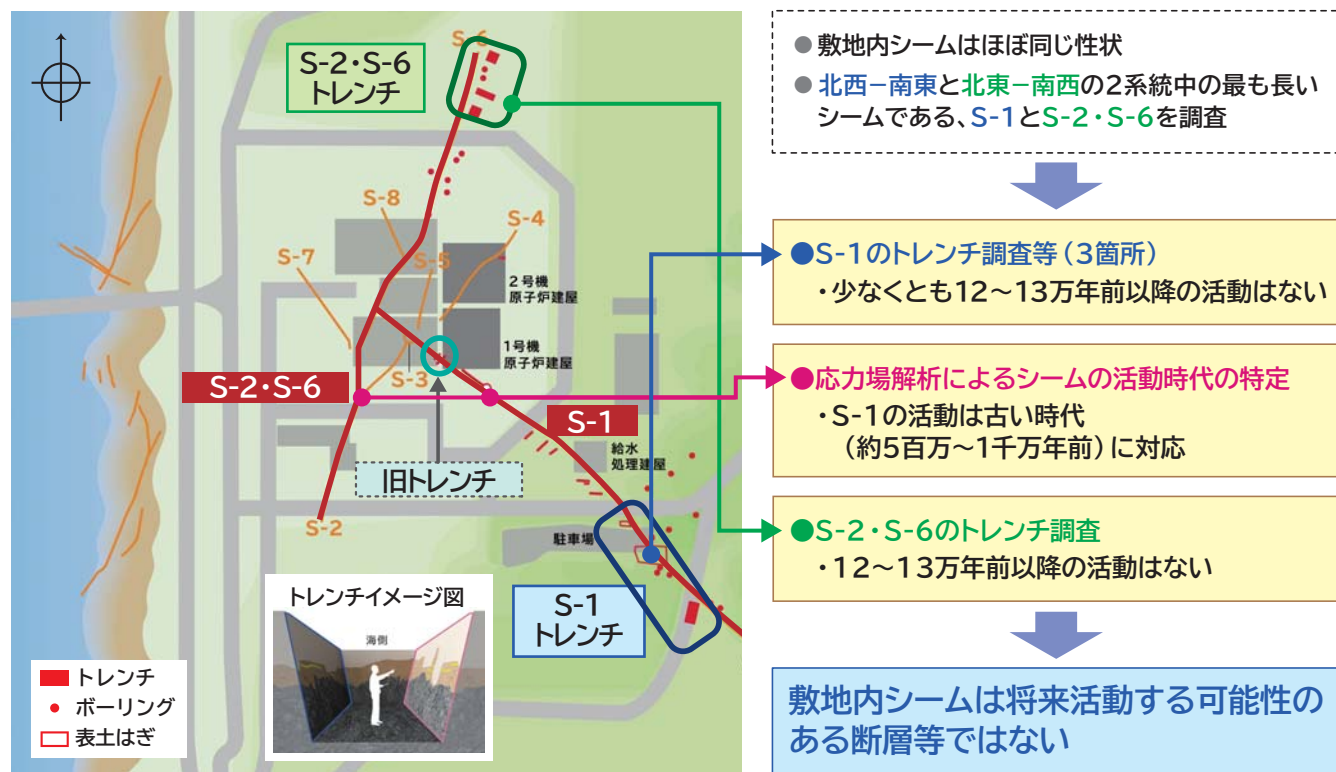
有識者会合の評価の概要と北陸電力の見解

シームS-1の活動性

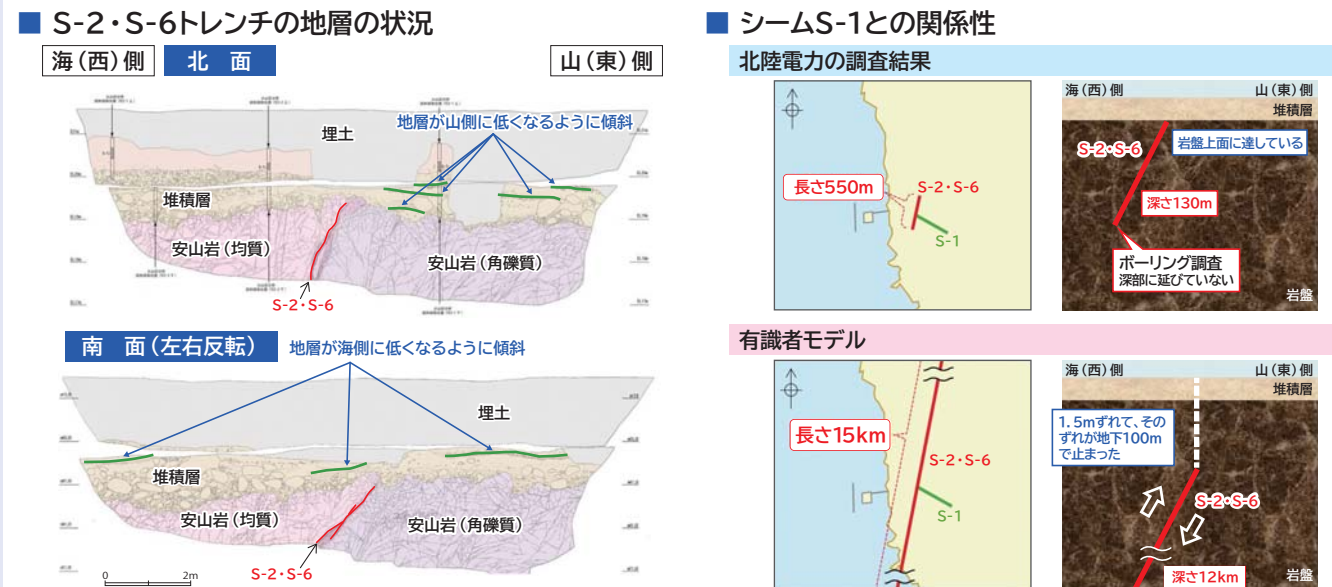


	評価書の概要	北陸電力の見解
S-1 北西部 (旧トレンチ) の活動性	<ul style="list-style-type: none"> ● 後期更新世以降に、北東側隆起の逆断層活動により変位したと解釈するのが合理的 ● 岩盤上面に段差があり、山側が海側より20~35cm程度高い ● S-1沿いの岩盤に見られる軟質な細粒部が侵食されずに残存 ● 段差上の堆積層の境界面は段差と同じような傾斜となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 後期更新世以降の活動はない ● 同様な段差は断層のない周辺地域で多くみられる ● 細粒部は軟質ではない ● 旧トレンチのような地質では断層活動があれば、ずれの痕跡が見えるはず ● 砂礫II層の下部層は山側で薄く海側で厚くたまっており、もともとの段差を埋めるようにたまったもの
S-1南東部の活動性	<ul style="list-style-type: none"> ● 後期更新世以降 (12~13万年前以降) の活動はない 	

北陸電力の調査内容と調査結果



シームS-2・S-6の活動性、シームS-1との関係性



	評価書の概要	北陸電力の見解
S-2・S-6の活動性	<ul style="list-style-type: none"> ● 後期更新世以降に、左横ずれ成分を持つ西側隆起の逆断層として活動した可能性がある ● 岩盤上面および地層に変位 (ずれ) は認められないが、地層が山側に低くゆるやかに傾斜している ● 地層が山側に傾斜するのは、断層活動によりたわんだ可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 後期更新世以降の活動はない ● 岩盤上面および地層に変位 (ずれ) は認められない ● トレンチの南面を見ると、地層が山側ではなく海側に低くなるように傾斜している ● トレンチ全体として、地層が一様に山側に傾斜する傾向は認められず、断層活動により地形がたわんだものでない
S-1にS-2・S-6が及ぼす影響 (数値計算)	<ul style="list-style-type: none"> ● S-2・S-6の地下延長部の断層が活動した場合、S-2・S-6の東側直近のみでS-1の動きが促進される ● 長さ15km、深さ12kmの地震を起こす大きな断層で、ずれが岩盤中の深さ100mで止まったと仮定して数値計算 	<ul style="list-style-type: none"> ● S-1北西部だけを動かすことを前提とした数値計算そもそも、有識者の仮定したモデルは北陸電力の調査データと整合しない ● 北陸電力の調査データでは、長さ550m、深さ130m未満、また、ずれが岩盤上面にまで達していることを確認

「今後の課題」と対応

評価書では「今回の評価は、限られた資料やデータに基づいて行われており、より正確・確実な評価にするためには、以下に示すデータ等の拡充が必要」として6項目の「今後の課題」が示されました。

評価書に記載の「今後の課題」	「今後の課題」の主旨
①1号原子炉建屋等建設時における、S-1とその周囲の形状を示す未提示の写真やスケッチの提示。	● 旧トレンチ以外のS-1に関する写真・スケッチの提示
②S-1、S-2・S-6等の断層破砕帯やその母岩の鉱物学的・地球化学的分析。	● 化学的分析等によるシームの形成環境等の検討
③S-1、S-2・S-6及びこれらの周囲に存在するせん断面について、これらを横断する鉱物脈の有無 (ある場合はその構成鉱物)、条線を含む構造同士の切断関係に関する検討。	● 顕微鏡レベルでの鉱物脈等の観点からシームの活動性の検討
④S-1、S-2・S-6の連続性 (深部方向、走向延長方向) 及び活動性に関する地質調査。	● シームの連続性 (深部方向、延長方向等) の検討
⑤敷地周辺に分布する断層の調査 (平面方向及び地下方向) と、その広域的枠組みの中での敷地の地形・地質構造に関する検討。	● 敷地周辺の断層 (福浦断層、兜岩沖断層等) と敷地内シームの関連性の検討
⑥完新世段丘の形成要因や高度分布に関する調査・検討。完新世段丘の存在と高度分布から海底に推定される断層と、既知の敷地内及び周辺に分布する断層との連続性、活動時期・履歴に関する調査。	● 完新世段丘 (新しい時代の段丘) の高度分布等からみた (自然な隆起かどうか)、海底活断層の活動性等の検討 ● 海底活断層と敷地内シームとの連続性等の検討

北陸電力は、これらの課題に対し、新たに得られた地質データを示す等、科学的・合理的に説明することにより、北陸電力の評価の妥当性をご理解いただけるよう努めてまいります。

志賀原子力発電所の安全対策の着実な実施

2015年11月、審査が先行する他社の発電所の審査状況等をふまえて、火災防護対策と内部溢水対策の工事内容および関連する耐震安全性向上工事内容の変更のため、追加工事を実施することとしました。

より一層の安全性向上に向けて着実に工事を実施するとともに、今後、2号機の審査や他の発電所の審査状況および新たな知見を把握し先行して対処する等、早期に工事を完了するよう努めてまいります。

安全対策の全体像(イメージ)



防潮堤の設置



防潮壁の設置



耐震安全性向上工事



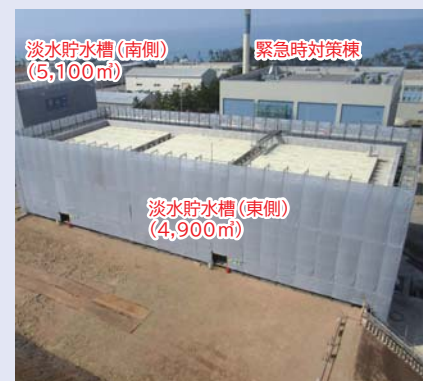
可搬型窒素供給装置の設置



格納容器フィルタ付ベント装置の設置



本体装置の搬入・据付(2015年7月)



淡水貯水槽の設置



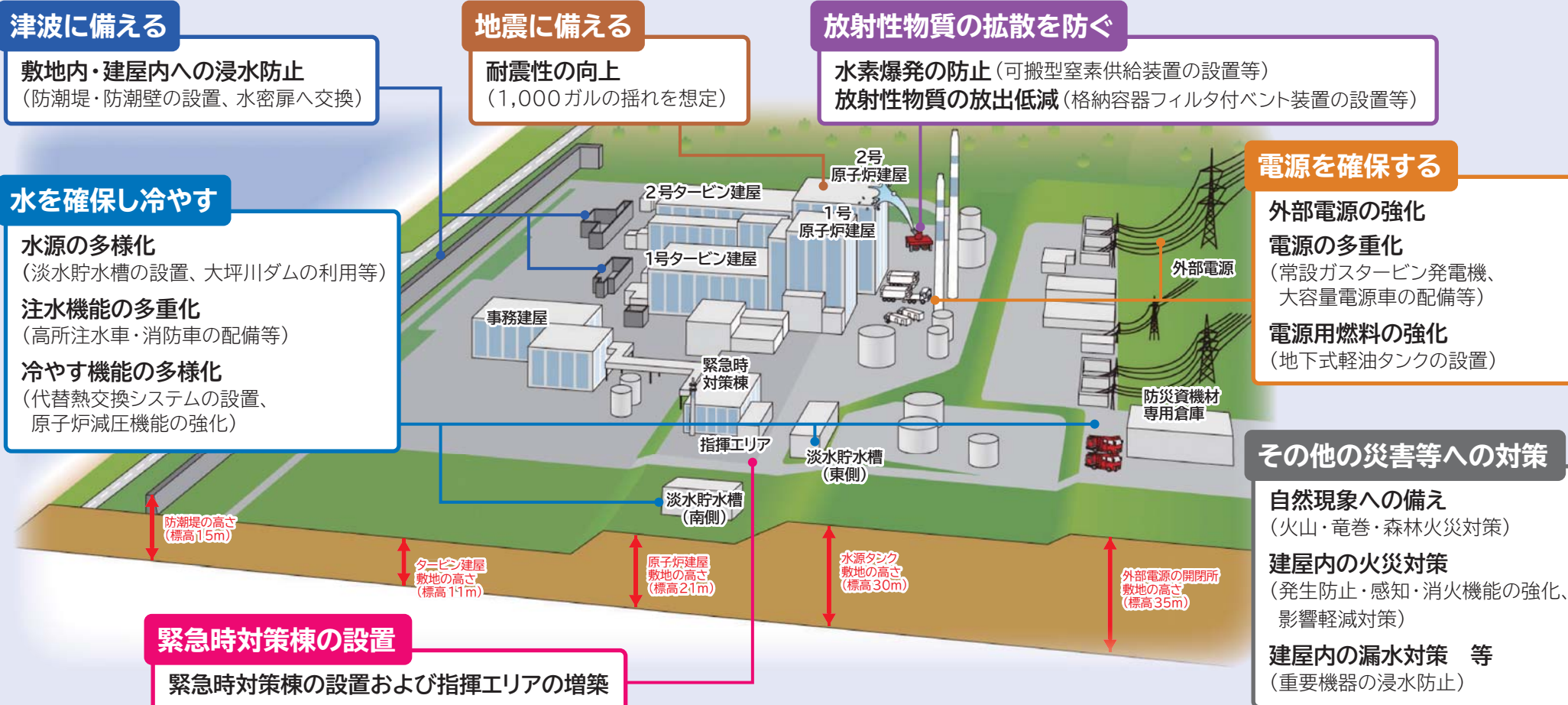
高所注水車の配備



増築した指揮エリアの外観



指揮エリア内部の様子



2016年3月末の様子



地下式軽油タンクの設置



森林火災対策(防火帯の設置)

Voice 「チーム志賀」のもと 一体となり、世界最高水準の安全性を目指す



北陸電力 志賀原子力発電所長 古谷 俊直

私たちは福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさない強い決意のもと、安全最優先で志賀原子力発電所の安全対策に取り組んでいます。

2016年3月には増設緊急時対策所、大容量淡水貯水槽や防火帯の工事がほぼ完了し、その他の安全対策工事についても着実に工事を進めています。

安全対策に終わりはありません。これからも地域の皆さまから「信頼」され、「安心」いただけるよう、発電所で働く北陸電力および協力会社の所員が「チーム志賀」のもと一体となり、世界最高水準の安全性を目指し、安全対策を進めてまいります。



志賀原子力発電所の安全・安定運転の基盤となる取組み

原子力防災訓練

2015年11月23日、石川県、志賀町等による、住民避難等も含めた「原子力防災訓練」が実施されました。北陸電力はこの訓練に参加し、国や地方公共団体との役割分担や連携を確認するとともに、災害対応能力向上のため、さまざまな訓練を実施しました。

また、志賀原子力発電所では、地震・津波等の自然災害をはじめとした想定を超える事態に備えて、設備面の強化はもちろん、それを扱うのは人であるという考えのもと、迅速で正確な対応能力の維持・向上を目指し、継続的に訓練を実施し、安全性向上に努めています。

各種訓練の実績

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	合計
実施回数	259回	487回	488回	467回	398回	2,099回



発電所本部の運営訓練（緊急時対策室）
緊急事態発生時の通報、事故状況の報告や対応策の確認



シミュレータ訓練（原子力技術研修センター）
発電所の緊急事態発生時の運転操作訓練



高所注水車の操作訓練
常設の配管による使用済燃料貯蔵プールへの注水やスプレイができない場合に用いる高所注水車からの放水訓練



可搬型代替海水ポンプの操作訓練
原子炉補機を冷却する海水系の取水機能が喪失した場合に用いる可搬型代替海水ポンプ車により循環運転訓練

原子力安全信頼会議

志賀原子力発電所の運営を中心とした取組み全般について、社外有識者の多角的なご意見等をいただくための会議体として、「原子力安全信頼会議（委員長 石田寛人 金沢学院大学名誉学長）」を設置しています。

2016年5月の10回目の会議では、志賀原子力発電所敷地内シームに関する対応状況や新規基準を踏まえた安全性向上工事の状況等について説明し、委員の方々からご意見を伺いました。

今後も、定期的に会議を開催し、引き続きご意見等をいただく予定です。



第10回 原子力安全信頼会議

志賀原子力発電所の安全性をご理解いただくための取組み

あらゆる機会を通じ、地域の皆さまに、志賀原子力発電所の安全性についてわかりやすく、丁寧にご説明し、ご理解ご安心いただけるよう全社を挙げて取り組んでいます。

〈2015年度の実績〉
志賀原子力発電所見学会
（公募見学会、各種団体向け見学会）：315回
自治会、女性団体、
労働団体等への説明会：622回
訪問による対話活動
（自治体、経済団体等）：延べ約3,900人



現地見学会の様子
（緊急時対策棟増築工事状況）

Voice 増設緊急時対策所の空調設備の設置・訓練

増設緊急時対策所の建設では、重大事故時、増設緊急時対策所に対応する要員の居住性を確保・維持するために必要な空調設備の可搬型空気浄化装置及び空気供給設備の設置を担当しました。現在は、増設緊急時対策所に対策拠点を移す際、機械保修課にて速やかに空調設備を起動できるよう、定期的に訓練を実施しています。今後も、迅速かつ的確に災害対応ができるよう、継続的に訓練を行ってまいります。



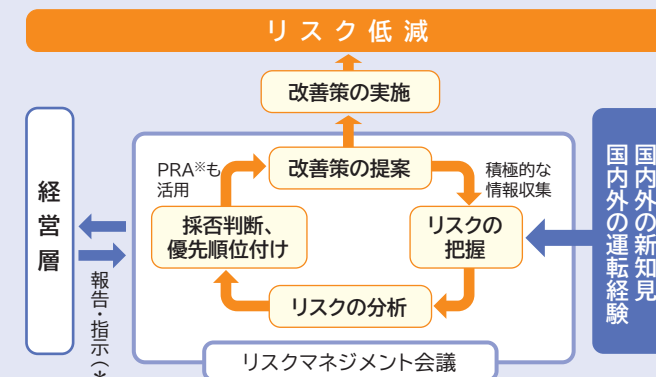
北陸電力 志賀原子力発電所
保修部 機械保修課
永坂 一広

志賀原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク管理

「原子力安全向上のための品質方針」にリスク管理の推進を明記

原子炉施設保安規定に基づいて、社長が「原子力安全向上のための品質方針」を定めています。品質方針の中で、常にリスクの存在を意識した業務の遂行を図るため、「安全に関するリスクを把握し、常に低減に努める」といったリスク管理の強化について明記しています。

継続的な安全性向上のイメージ



(*) 報告・指示は品質マネジメントシステムにおけるマネジメントレビュー（社長によるレビュー）で実施

用語解説 ※確率的リスク評価(PRA)：原子力施設等で発生し得るあらゆる事故を対象として、その発生確率と発生時の被害の大きさを定量的に評価し、その両方で判断される「リスク(危険度)」により安全性の度合いを表現する手法。

品質マネジメントシステムによるしくみの構築

リスクを把握し、改善策の検討・実施を継続的に行うため、2015年4月にリスクマネジメント会議を設置し、リスクマネジメント体制を構築しました。

確率的リスク評価(PRA)※を活用した安全性向上策の検討

実効性のある対策を継続的に検討・実施していくために、PRAを積極的に活用していくとともに、PRAに関する人材の育成を実施してまいります。

原子力発電の必要性

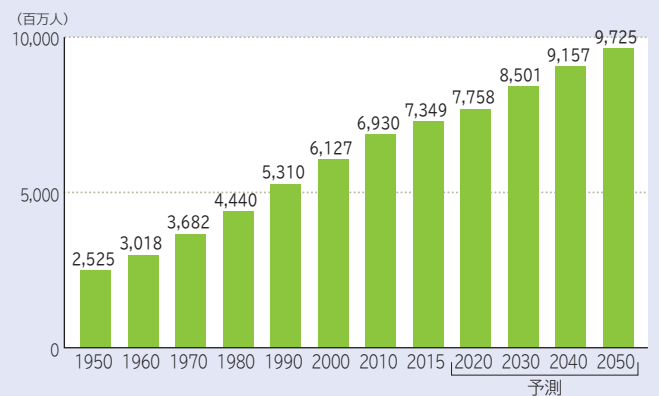
将来にわたり電力の安定供給を確保していくために、原子力発電は「安全確保」を大前提として、欠かせない電源であると考えています。エネルギー自給率の低い我が国では、「安定供給」に加え、「経済性」「環境保全」の観点からのエネルギーミックスが重要であり、原子力発電は、今後もベースロード電源として重要な役割を担う必要があります。

エネルギー自給率

日本は国内エネルギー資源が乏しく、エネルギー自給率がわずか6%しかないことから、エネルギー資源のほとんどを輸入に依存しています。

今後、新興国を中心とした世界の人口増加に伴うエネルギー需要の増加が見込まれる中、化石燃料に過度に依存しないエネルギー構成を目指していく必要があります。

世界の人口推移

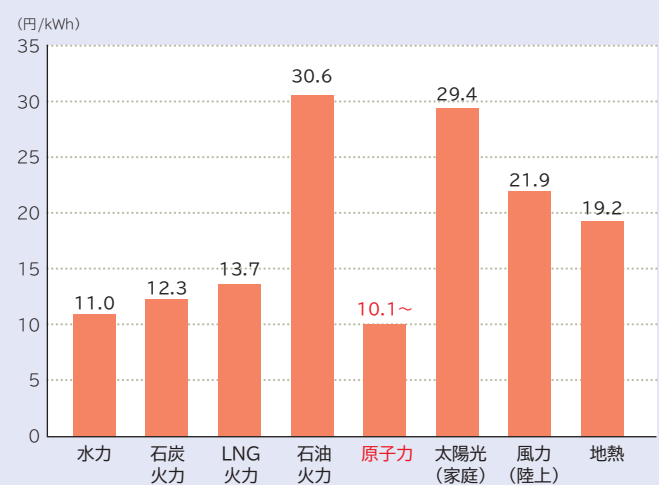


出典：UN, World Population Prospects: The 2015 Revision
*2020以降は予測

電源別の発電コスト

原子力の発電コストは、事故リスク対応費用等の追加コストを含めたとしても、他の電源と比べて遜色ありません。

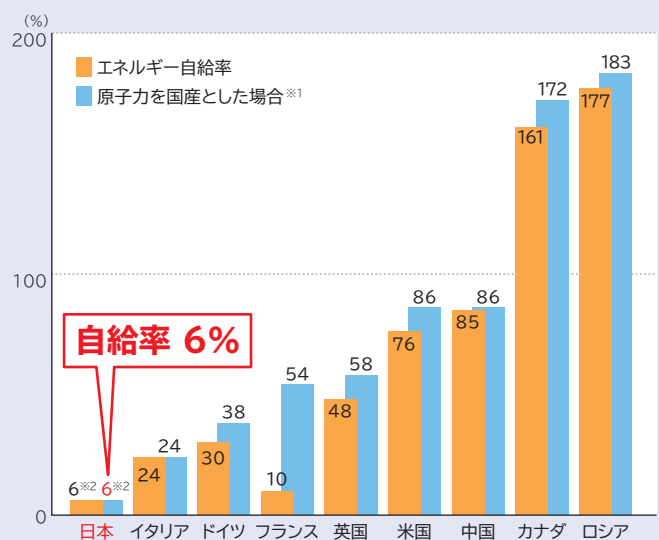
主な電源の発電コスト(2014年モデルプラント)



*試算の前提等によって数字は変わります。

出典：発電コスト検証ワーキング(2015.5)

主要国のエネルギー自給率(2013年)



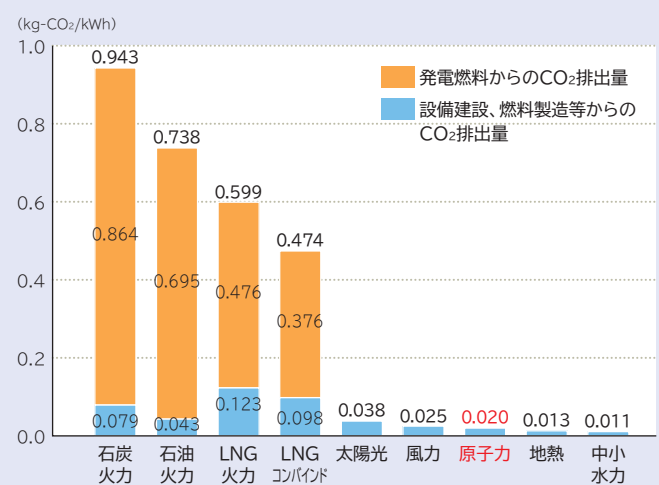
※1 原子力発電の燃料であるウランは、一度輸入すると長期間使用することができ、再処理してリサイクルすることが可能なため準国産エネルギーとして扱われます。
※2 原子力の寄与が小さく四捨五入の関係で同じ6%となっている。

出典：IEA「ENERGY BALANCES OF OECD COUNTRIES(2015 Edition)」/
「ENERGY BALANCES OF NON-OECD COUNTRIES(2015 Edition)」

電源別のCO₂排出量

原子力や、太陽光・風力等の再生可能エネルギーは、発電時にCO₂を排出しない電源です。

主な電源の1kWhあたりのCO₂排出量



出典：電力中央研究所報告書(2010.7)

エネルギーミックス

低廉で良質な電気を安定的にお届けすることが、電気事業者の社会的使命です。

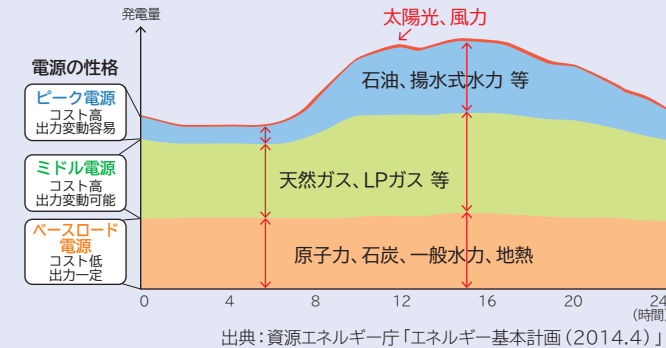
暮らしや産業を支える電気の供給には、「安全確保」を大前提に、「安定供給」「経済性」「環境保全」を同時に達成する「S+3E」の観点から電源のエネルギーミックスが重要です。

また、時々刻々と変化する電力需要に対して、経済性や電力需要変動への対応のしやすさ等、各電源の特性を活かし、バランスよく組み合わせることで発電することが不可欠です。

エネルギー・ミックスの考え方(S+3E)



需要の変化に対応した電源の組み合わせ



出典：資源エネルギー庁「エネルギー基本計画(2014.4)」

2015年7月に、2030年度の国のエネルギーミックスが決定し、原子力の割合は20~22%程度と設定され、これを受けて、温室効果ガスの削減目標も策定されました。

(国：2030年度に▲26.0%(2013年度比)、電気事業：2030年度に排出係数0.37kg-CO₂/kWh程度)

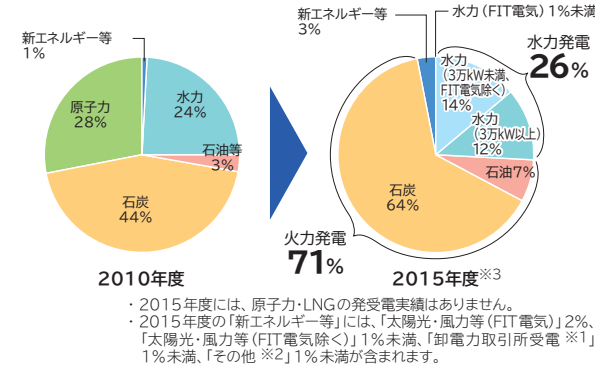
	震災前(2006~2010)	現状(2013)	2030年度
再エネ [水力+新エネ]	10%程度 [新エネ再掲：1%]	11%程度 [新エネ再掲：2%]	22~24%程度 [新エネ再掲：13~14%]
原子力	28%程度	1%程度	20~22%程度
石炭	25%程度	30%程度	26%程度
LNG	27%程度	43%程度	27%程度
石油	10%程度	15%程度	3%程度

北陸電力の電源構成

北陸電力の電源構成は、北陸地域の豊かな水資源を活かした水力発電比率の高さが特徴で、水力発電比率は全国でもトップとなっています。

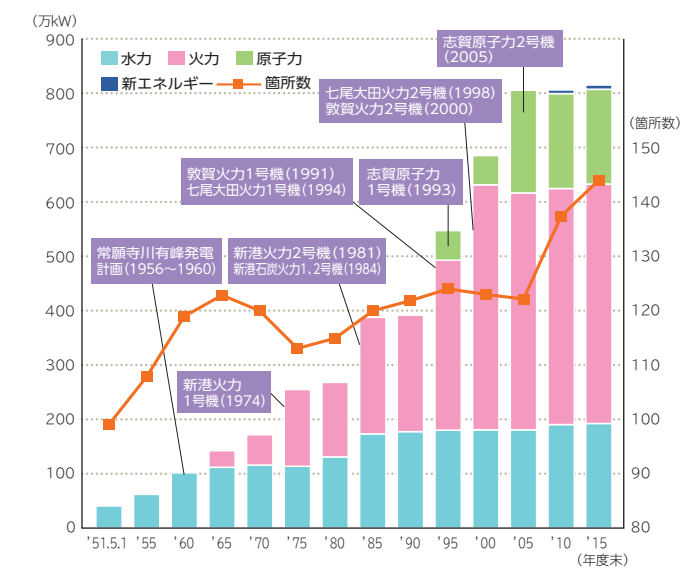
震災以降、原子力発電所が停止し、その代替として火力発電の高稼働が継続していますが、今後も志賀原子力発電所の再稼働をはじめ、北陸電力初のLNG火力発電所の新設や、費用対効果を踏まえた再生可能エネルギーの開発に着実に取り組み、更なる電源の多様化に努めてまいります。

北陸電力の発電電力量構成比(自社小売需要に対する構成比)



(注)FIT電気とは再生可能エネルギーの固定価格買取制度(Feed-in Tariff Program)のもと、調達した水力・太陽光・風力等の電気。
北陸電力がこの電気を調達する費用の一部は、北陸電力のお客さま以外の方も含め、電気をご利用のすべての皆さまから集めた賦課金により賄われており、この電気のCO₂排出量については、火力発電等も含めた全国平均の電気のCO₂排出量を持った電気として扱われます。なお、2015年度のすべてのFIT電気の合計は3%となっています。
※1 この電気には、水力、火力、原子力、FIT電気、再生可能エネルギーなどが含まれます。
※2 この電気から調達している電気で発電所が特定できないものについては、「その他」の取り扱いとしています。
※3 2015年度の構成比は、経済産業省の制定する「電力の小売営業に関する指針(2016年1月)」に基づき算定。

発電設備の推移(箇所数・認可出力)



2 電力の安定供給の確保に向けて

安定した電気をお届けするためのグループ一体となった取り組み

発電

電力安定運転のために

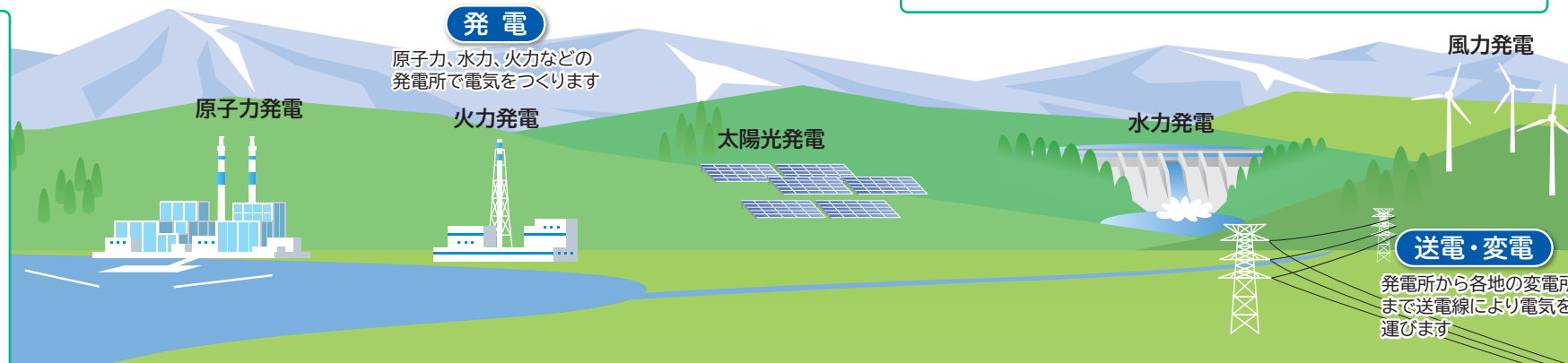
北陸電力 富山新港火力発電所 技術課 種 丈晴



私は、富山新港火力発電所のボイラー設備の保守業務に携わっています。当所のボイラーは石炭2基、石油2基と燃料が異なり、運用形態(ベース、ピーク)も異なることから、ボイラー毎に応じた機器の点検補修を計画・実施しています。社内認定の技術マスターとして自らの経験を活かし、若年者にOJTや勉強会を通じて設備の保守に関する技術・技能の継承に努めています。今後も、技術課員や協力会社の方々とのコミュニケーションを充実し、作業安全と工事品質の確保に取り組んでいきます。

発電

原子力、水力、火力などの発電所で電気をつくります



送電・変電

発電所から各地の変電所まで送電線により電気を運びます

配電

安定した電気をお届けし続けるために

北陸電力 石川支店 配電部 配電工事課 浦 幸帆



私は配電設備の設計担当として、主にお客さまからの電気の申込や道路工事等に伴う設備の新設・移設工事の設計を行っています。今年度は通常の工事設計に加え、大規模な設備増強工事設計を任せられ、最初は不安な面もありましたが、同僚たちと共に考え、「北陸地域のお客さまへ安定した電気をお届けする」という使命感を持って設計業務に取り組むことができました。自分が設計した設備が形になり、安定供給の一翼を担っていることを実感できることにやりがいを感じながらこれからも業務に取り組んでいきます。

配電

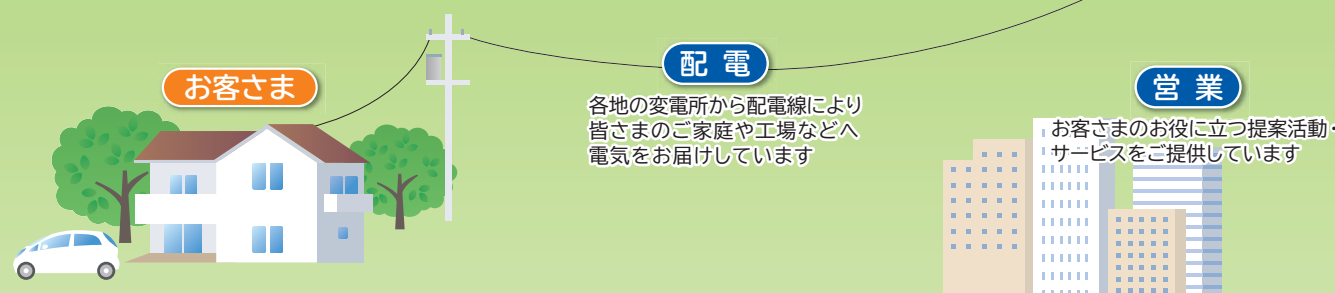
配電マンとしてのプライド

北陸電気工事 金沢支店 配電部 配電課 桑本 庸平



私は、2016年の4月から新米作業長として配電の現場管理をしています。なってまだ日が浅いため慣れていないパソコン操作に加え、翌日以後の仕事の段取り、電力担当者との打ち合わせ、施工が完了した現場の設計書の処理など、毎日が悪戦苦闘の連続です。これまでの現場第一線で配電設備を作り上げる仕事から、次は現場を管理する仕事にステージは変わりましたが、電力の安定供給という点で地域社会と密接に関わりあう「配電マンとしてのプライド」をいつまでも持ち続け、早く一人前になれるよう頑張っています。

お客さま



営業

営業

「エネルギーのことなら北陸電力に」信頼される営業マンを目指して

北陸電力 福井支店 営業部 営業担当 高崎 康弘



お客さまニーズが多様化する中、電気とガス等を組み合わせたトータル営業で最適なエネルギー利用につながる提案を実施しています。コンサル提案活動の中で、お客さまも気付いていない潜在ニーズを掴み提案する事で、高い評価をいただいております。提案を採用いただいたお客さまには改善後の計測等により、提案通りのメリットが出ているか検証し、効果を実感いただくことも重要と考えています。「エネルギーのことなら北陸電力に」と思っていただけのように、心に響く提案で信頼される営業マンを目指します。

*所属は2016年6月30日現在

今後の安定供給に向けた取り組み

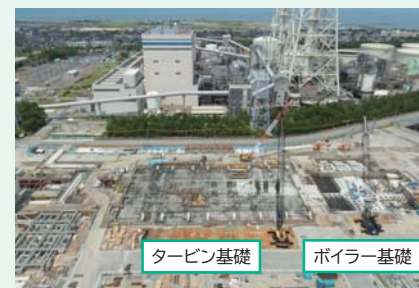
LNG火力建設計画の着実な推進

富山新港火力発電所石炭1号機をリプレースし、CO₂排出量を大幅に削減できるLNG(液化天然ガス)を燃料とする北陸電力初のコンバインドサイクル発電設備*を導入し、一層の電源多様化による安定供給の確保と更なるCO₂排出量削減による低炭素社会の実現に貢献していきます。2016年度は、発電設備(ボイラー、タービン)の据付工事等が本格化する予定であり、2018年11月の運転開始に向け、着実に工事を進めていきます。

あわせて、LNG燃料の安定的・経済的調達や富山新港火力発電所石油2号機のLNG焚きへの燃焼装置の改造に向けた準備を進めていきます。



LNG導入イメージ図



LNG発電設備工事



LNGタンク工事

出力	42.47万kW
着工	2015年3月
運転開始	2018年11月
CO ₂ 削減量*	120万t-CO ₂ /年程度

*LNG1号機運転開始による新港地点でのCO₂削減量

用語解説

※コンバインドサイクル発電設備：従来の蒸気タービンでの発電と比較して熱効率が高く、エネルギーの有効活用が図れる、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた発電設備。



ドローンを使った配電線の状況把握

確実な供給力確保およびリスク発生に備えた対応力強化

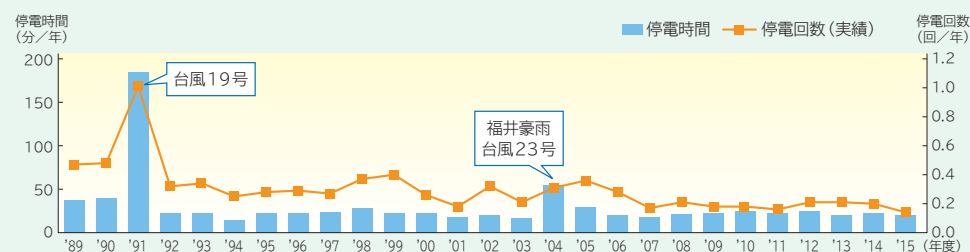
大規模電源の停止や大規模災害、異常気象等、さまざまなリスクに備え、安定供給の使命を果たしていくため、供給力確保に向けた取組み、設備対策および防災訓練等を確実に実施しています。

大規模災害への対応策

大規模災害時に迅速な連携・対応ができるように、「非常災害対応実働訓練」を実施しています。

また、作業班それぞれの位置情報をタブレット端末を用いて確認するシステムの導入や、新たな試みであるドローンを用いた配電線巡視により、停電時の早期復旧に努めています。

■お客さま一戸あたりの年間停電時間・停電回数の推移



Eリーグ北陸パンフレット

流通設備の供給信頼度・機能維持対策の実施

設備の保守管理・運用を確実にを行うとともに、高度成長期に施設した設備の更新工事が今後ピークを迎えることをふまえ、長期的な更新工事計画の平準化や施工体制を確保し設備の機能維持を図っています。

「Eリーグ北陸」による取組み

2015年7月、北陸電力の送配電工事を実施する企業とのグループ「Eリーグ北陸」を立ち上げ、送配電工事従事者の人材確保・育成に向けた取組みを進めています。

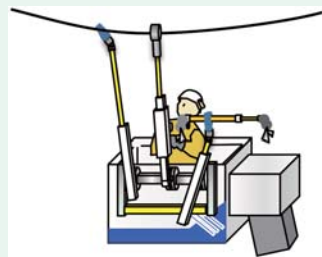
今後も緊密な連携を図り、電力の安定供給に努めていきます。

【主な取組み】

- 就職希望の学生とご両親、学校の先生を対象に、送配電工事会社の「社会に貢献する使命感」などをPRするパンフレットを作成。
- 北陸電力と「Eリーグ北陸」加盟会社は、採用活動等でパンフレットを活用するとともに、ホームページでも紹介。

配電工事用ロボットの開発に向けた研究

大学と共同研究契約を結び、配電用作業ロボットの開発に向けた研究を進めています。まずは、作業員を補助する補助型ロボット(左図)の開発を行い、将来的には配電工事における作業を自動化することにより、作業の効率化、省力化と作業者の負担軽減を図っていきます。



補助型ロボットのイメージ



スマートメーター設置の様子

エネルギーの効率的利用に向けた取組み

スマートメーターの着実な設置と効率的活用

全世帯への設置が2024年3月までに完了するよう、計画的に設置していきます。エネルギーの効率的利用に資するスマートメーターの機能を活用し、お客さまへのサービス向上に努めていきます。

自然災害等に備えた対応力強化への取組み

自然災害等への設備の備え

樹木伐採による事故の未然防止

着雪、強風等による配電線や送電線への樹木接触・倒壊を未然に防止するため、所有者の協力を得ながら、樹木の伐採等を進めています。



降雪地での樹木伐採

送電線の雪害・雷害・鳥害対策

送電線の雪害対策用の相間スペーサの設置、雷害に備えた避雷装置の設置、鳥害に備えた鳥害防止器の設置等、設備強化を計画的に実施しています。



送電用避雷装置



鳥害防止器



相間スペーサ

全社防災訓練等の実施

非常災害に全社一丸となった的確に対応できるよう、毎年全社防災訓練を実施しています。

また、各地の自治体で開催される防災訓練に参加し、大規模災害での復旧訓練等を行うなど、ライフラインを担う事業者として、地域との連携体制の強化に努めています。



富山県総合防災訓練に参加

自然災害への対応

自然災害の影響等による停電事故発生時には、北陸電力グループを挙げて、迅速な復旧に努めています。



山間地での復旧作業



柱上での復旧作業

実践的な訓練の実施

自然災害等の発生に備え、迅速かつ的確な対応ができるように、事故復旧や雪害復旧訓練などの実践的な訓練を実施しています。



鉄塔損壊や電線断線等を想定した仮鉄柱の組立訓練



雪上での歩行訓練

「平成28年熊本地震」への復旧応援

九州電力からの応援要請を受け、2016年4月17日から30日まで、熊本地震による被災地へ復旧応援要員を派遣しました。

配電および総務部門の社員延べ122名が、熊本県阿蘇地方で高圧発電機車8台による停電箇所への仮送電を行いました。



高圧発電機車4台による病院等への送電



高圧発電機車の取付作業

環境にやさしい社会の実現を目指して

再生可能エネルギーの導入拡大への着実な取組み

北陸電力グループでは、水力・風力・太陽光およびバイオマス等の再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組んでいます。

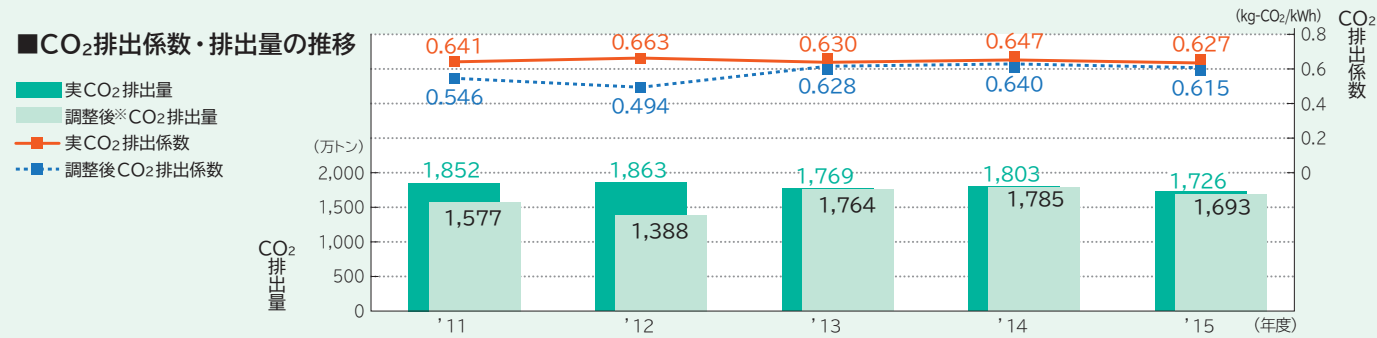
電源の低炭素化等に向けた取組み

北陸電力グループは、志賀原子力発電所の再稼働をはじめ、LNG火力の新設、再生可能エネルギーの導入拡大等、電源の低炭素化を積極的に進めるとともに、省エネに資する高効率機器をご提案する等、お客さまにエネルギーを効率的にご利用いただくための取組みを推進し、CO₂排出量の削減に努めています。

2016年2月、北陸電力を含む電気事業者等および特定規模電気事業者（新電力）有志は、電力業界全体で低炭素社会の実現に向けて取り組んでいくために、電気事業低炭素社会協議会（以下、協議会）を設立しました。

協議会は、「電気事業低炭素社会協議会の低炭素社会実行計画」の達成に向けた取組みの着実な推進を目的としており、2030年度に排出係数0.37kg-CO₂/kWh程度を目指す等の目標を掲げています。

北陸電力は協議会の一員として、低炭素社会の実現に向け一層努力してまいります。



※ 調整後の値は、CO₂クレジット（2012年度まで）、再生可能エネルギーの固定価格買取制度に伴う調整分（2012年度より）等を反映。
 (注) 北陸電力の電気をご使用のお客さまが、「地球温暖化対策の推進に関する法律」(温対法)に基づく国への報告において、「温室効果ガス排出量」の算定では「実CO₂排出係数」を、「調整後温室効果ガス排出量」の算定では「調整後CO₂排出係数」をご使用いただくことになります。

水力発電

2009年度以降、河川維持放流水の活用による、4か所の維持流量発電所の新設や、28か所の既存水力発電所で水車ランナ取替等の設備改修などにより、水力発電所の出力増加を行いました。

2016年4月には、北陸電力グループとして27年ぶりの水路式水力発電の新規開発となる、片貝別又発電所（富山県魚津市）の運転を開始しました。



水車ランナ取替



片貝別又発電所外観

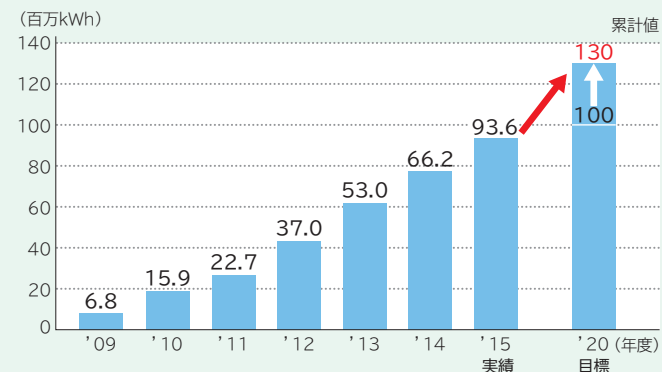
■片貝別又発電所の概要

発電所名	出力	発電電力量	運転開始	CO ₂ 削減量※
片貝別又	4,500 kW	1,830万 kWh/年程度	2016年4月 〔部分運転開始 〔2015年12月〕〕	1.07万 t-CO ₂ /年程度

※北陸電力2015年度調整後CO₂排出係数を使用して試算

2016年度には、それまで「2020年度までに発電電力量1億kWh拡大（2007年度対比）」としていた目標値を「1.3億kWh拡大」に引き上げました。

■水力発電電力量の拡大（2007年度対比）



風力・太陽光発電

北陸電力では、低炭素社会の実現と北陸地域における太陽光発電の普及拡大の先導的役割を果たすため、2011年から太陽光での発電を開始しています。

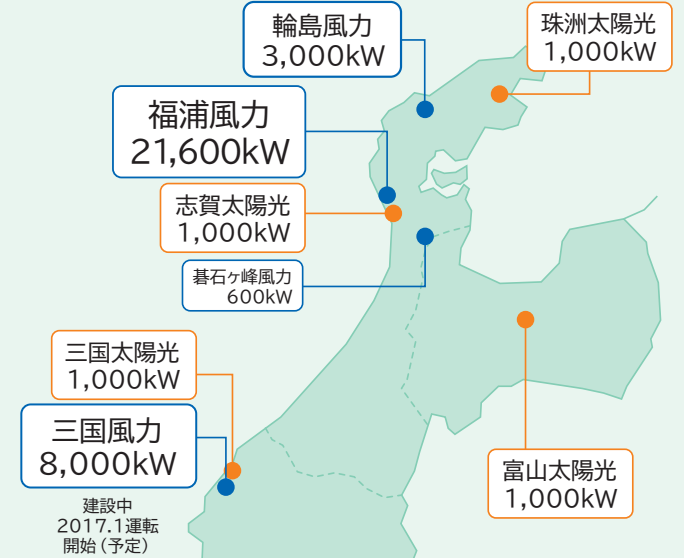
また風力発電は、北陸電力グループの日本海発電機が石川県志賀町福浦港地区において建設した福浦風力発電所を皮切りに、石川県等から風力発電所を譲り受け再生可能エネルギーの導入促進を図っています。

現在、日本海発電機がテクノポート福井（福井県坂井市三国町）で三国風力発電所の建設を進めています。



三国風力発電所完成イメージ図

富山太陽光発電所



項目	発電電力量	CO ₂ 削減量
風力発電	29百万kWh (2015年度)	1.71万t-CO ₂
太陽光発電	4百万kWh (2015年度)	0.25万t-CO ₂

木質バイオマス混焼発電

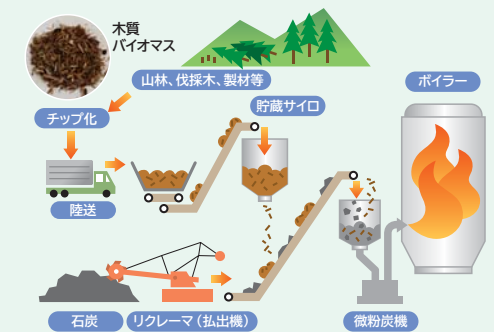
2007年から敦賀火力発電所2号機で木質バイオマス混焼発電を開始、2010年には七尾大田火力発電所2号機でも開始しています。

今後も安定的に木質バイオマス混焼発電を実施してまいります。

■木質バイオマス混焼発電の概要

名称	導入開始	発電電力量	CO ₂ 削減量
敦賀火力発電所2号機	2007年6月	3,000万kWh/年※ 程度	2.5万t-CO ₂ /年※ 程度
七尾大田火力発電所2号機	2010年9月		

※木質バイオマスを年間3.5万t程度利用した場合



Voice

北陸電力 土木部 水力・新エネ室 水力電気チーム 統括 二俣 浩行



限りある資源を大切に

「水の一滴は、血の一滴」これは豊富な河川水を利用した水力発電をルーツとする北陸電力で、先達から継承されている「貴重な水を一滴漏らさず有効に使う」というスピリッツです。

そして今、私たちは、貴重な資源であるからこそ大切に、効率的に発電したいとの思いから、さまざまな取組みを行っています。

改修期を迎えた水力発電所も、設計・加工技術などの進歩で、改修前より高い性能を発揮することが可能です。

地道な努力と工夫の積み重ねにより、低廉で安定した電力をお届けできるものと考えています。

G7富山環境大臣会合

「G7富山環境大臣会合」（2016年5月）に併せ行われた、環境省主催「富山環境展」でブース出展を行い、CO₂削減など北陸電力の環境保全活動の取組みを紹介しました。



ブース内の様子

小売全面自由化への対応

お客さまから選択いただくための取組み

北陸エリア内のお客さまに引き続き北陸電力をお選びいただけるよう、低廉な料金水準をはじめとする「北陸電力ブランド」のPRをベースに、家庭分野では、北陸電力サービス会員制度「ほくリンク」の会員獲得を活動の柱とし、法人分野では、省エネ等の最適提案、コンサルティング活動およびグループ企業の経営資源を活用したトータルソリューションサービスの提供を展開してまいります。

また、北陸エリア以外での販売先拡大として、首都圏エリアでの販売を開始いたしました。

家庭分野の取組み

サービス会員制度「ほくリンク」を通じて、お客さまのご要望に的確にお応えすることで、引き続き北陸電力をお選びいただけるよう、更なるサービスの充実や電気料金メニューの検討を進めています。

サービス会員制度「ほくリンク」

「ほくリンク」の会員の皆さまには、パソコンやスマートフォン等で電気料金の使用量をご確認いただけるサービスや地域企業と連携したポイントサービス等、各種サービスをご提供してまいります。



「ほくリンク」の意味
北陸に根差す企業として、お客さまや地域とつながりたい(=リンク)という思いを込めました。

●主なサービス内容

①電気料金・使用量照会 ●電気料金や使用量がひと目でわかります ●電気料金・使用量・口座振替日をメールでお知らせ ●よく似たご家庭と電気使用量を比較		
②メールマガジン 暮らしの快適情報や省エネのヒント等お役立ち情報をお届け	③お得ネット 地域の商品・サービスを紹介	④エルプラdeカルチャー エルプラザでの各種教室開催や趣味の作品展示
⑤お困りごと解決 鍵、窓ガラス、水まわり等の駆け付け修理やハウスクリーニングのサービスをご提供	⑥省エネ診断 環境・お財布にやさしい電気の使用法をご提案	⑦出かけて節電 節電にご協力いただいた時間帯に、協力店舗等でご利用いただけるクーポンをメールでお届け
⑧ポイントサービス 2016年7月開始 ・会員登録、検針票Web閲覧、アンケート回答等でポイントを付与 ・ポイントは、地域企業の商品・ポイント等と交換 (商品券、商品割引券等と交換) [百貨店]大和、めいてつエムザ [ショッピングセンター]アピオ [スーパー]アルビス、大阪屋ショップ、どんたく、ハニー、マルエー [クリーニング]ヤングドライ (ポイントと交換) [通信]NTTドコモ (チケット/割引券、商品と交換) [スポーツチーム]カターレ富山、ツエーゲン金沢、富山GRNサンダーバース、石川ミリオンスターズ、福井ミラクルエレファンツ [飲食店]ハチパン その他、地域名産品との交換も可能 (寄付) [公益団体]日本赤十字社 (企業名は敬称略 2016年7月現在)		

新料金メニュー

◆節電とくとく電灯 (2016.4.1~)

北陸電力が予めお知らせする日時(7月~9月の13時~16時)に節電すると、その実績に応じて電気料金を割引。

◆くつろぎナイト12・節電とくとくプラン (2016.8.1~)

夜間および土日祝日の使用量が多いお客さま向けに、お得な夜間時間帯を12時間(20時~8時)に、土日祝日は平日昼間に比べお得になるよう設定。

【更にお得な使い方】
「出かけて節電」と組み合わせることで、電気料金の割引に加えてお得なクーポンを活用し、ポイント付与や商品割引等の特典を受けることも可能です。

「出かけて節電」の概要

北陸電力 実施日時をメールで受け取り
メール内容 ●実施日時 ●クーポンが掲載されたURL

ほくリンク会員さま クーポンを取得し、エアコン等を消して実施日時にお出かけ
●パソコン・携帯ご利用の方 ●スマートフォンご利用の方
印刷 画面メモ

協力企業様・団体様 協力企業様・団体様の店舗で、クーポンを提示して特典をゲット!

法人分野の取組み

お客さまから引き続き北陸電力を選択いただくため、ご契約内容や電気の使用状況、お客さまのニーズを踏まえ、省エネ等の最適提案やコンサルティング活動等を実施しています。

省エネ提案活動

エネルギー計測等による省エネ診断を通じて、すぐに取り組み始める運用方法の改善から設備の取替更新まで、具体的で実効性のあるエネルギーコンサルティング提案活動を実施しています。

一方、社内ではコンサル事例コンクールを開催する等、コンサルティング能力の向上を図っています。

法人お客さまへの省エネ情報発信

省エネのヒントやエネルギー使用合理化事業者支援補助金(経済産業省)等の最新の補助金情報等をお届けする省エネメールマガジン[eね!サポート]の配信、省エネに関するセミナーの開催等、エネルギーを効率的にご利用いただくためのお役立ち情報を発信しています。

省エネメールマガジンは、月1回の定期便と、タイムリーな情報をお届けする特別便を発信しており、読者も年々増加しています。

また、お客さまニーズにお応えし、具体的な省エネの事例をわかりやすく紹介するため、多くのお客さまが出席できる省エネセミナーを各地で開催しています。

トータルソリューションサービスの提供

北陸電力グループ企業との連携を強化し、お客さまの省エネ・省コスト・省CO₂ニーズを捉えたトータルソリューションサービスの提供を行っています。

具体的には、電気とLNGを最適に組み合わせたエネルギーサービスの提供や、北陸電力グループが、お客さまのエネルギー供給設備等の設計・施工から運転・保守まで一貫して行う設備受託サービス等を提供しています。



工場での省エネコンサルティング

メールマガジンは、次のURLからご登録できます。
登録無料 http://www.rikuden.co.jp/cleaneco/A_mlmag.html



省エネセミナー



LNG配送用タンクローリー

設備受託サービス(熱供給設備)

北陸エリア以外での販売

首都圏での販売開始

志賀原子力発電所の停止により供給余力に限りはあるものの、北陸エリアの安定供給を最優先としたうえで数量を限定し、首都圏エリアでのご家庭・法人向けに電力販売を実施しています。

首都圏ご家庭向け「北陸かがやき契約」

2016年4月から、首都圏エリアのご家庭向けの電気料金メニューとして「北陸かがやき契約」を新たに設定し、お客さまに販売を開始しています。

単身世帯から2世帯住宅まで、幅広いお客さまにメリット*があり、販売は順調に推移しています。(月間120kWhを超える電気をご使用されるお客さまにおすすめです。)

*※東京電力 従量電灯B/Cとの比較

2016年4月、首都圏エリアを対象に販売を開始。

北陸電力の電気、3つのポイント

1 信頼 安心と信頼の実績! 長年、北陸地域で電気を販売してきた電気のプロフェッショナルが電気をお届けしますので安心です。	2 おトク 年間約8,400円*もおトク 戸建住宅、3人家族でご利用の場合のモデルケースにおいて、年間約8,400円*もおトくに。	3 簡単 お手続きはとっても簡単!! Webでお申し込み完了! 毎月の料金や使用量もWebでご覧いただけます。
---	---	---

*※東京電力の従量電灯B(50アンペア、400kWh/月)と比較したメリット額

更なる効率化への挑戦

2015年度は、石炭火力発電所の定期点検時期の見直しや24時間体制での点検実施による工期短縮等により、発電コストの安い石炭火力を最大限活用し燃料費の低減を図るとともに、ピーク時間以外の供給余力を販売する等、卸電力取引所を積極的に活用し、最大限の効率化に取り組んでまいりました。

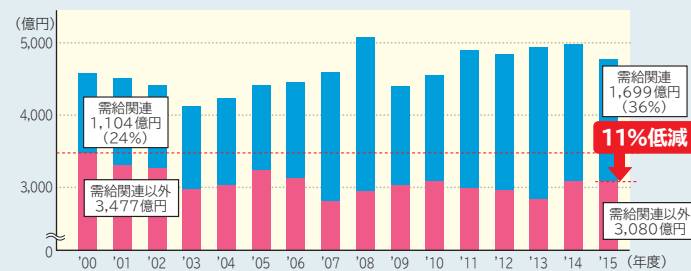
2016年度は、小売全面自由化開始による競争拡大を見据え、これまでの経営効率化の取り組みをベースに**更なる効率化として資材調達価格の7%低減に取り組み、70億円のコスト削減を目指してまいります。**

2015経営効率化の取り組み

	主な内容
人件費・諸経費等コスト削減の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化による人件費の削減 低灰分・低コストの石炭（インドネシア、ロシア等）の利用拡大 競争発注の拡大による資材調達価格の低減 施策の優先順位明確化による諸経費の削減
火力発電所定期点検の工程・内容の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検の工程・内容の見直し等による燃料費の低減
効率的な需給運用の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 供給余力を最大限活用した卸電力取引所への販売 需要変動に応じた経済的な需給運用

経常費用の推移

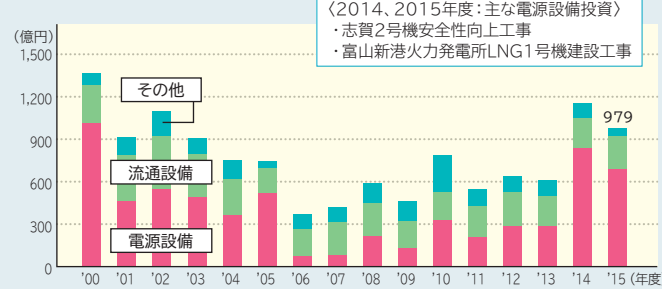
需給関連費用（燃料費、購入電力料等）は、金額や構成比率が高まっていますが、需給関連費用を除いた経常費用は、これまでの経営効率化の取り組みにより、2000年度に比べて11%低減しています。



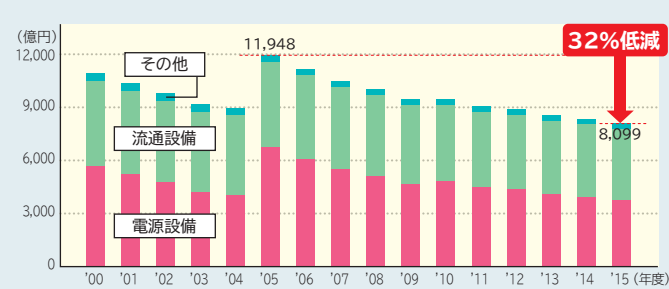
設備投資・電気事業固定資産の推移

安全最優先を大前提として、志賀原子力発電所2号機安全性向上工事や富山新港火力発電所LNG1号機建設工事等安定供給に必要な電源設備の形成・更新に取り組む一方で、工事内容の精査や資材調達価格の低減等により設備投資額の抑制に努めています。また、電気事業固定資産においては、志賀原子力発電所2号機の運転開始（2005年度）以降、安全最優先を前提とした設備投資額の抑制に努めたことにより32%低減しています。

設備投資の推移



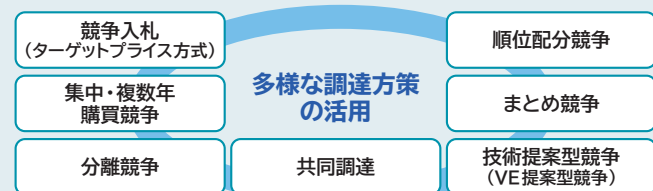
電気事業固定資産の推移



2016経営効率化の取り組み

電力の安定供給および資材の安定調達、経済性の観点から、調達品目に応じた最適な調達方法を採用し、調達コストの低減に取り組んでいきます。

多様な調達方法の活用



調達コスト低減の主な取り組み

スケールメリットを活かした資材調達コストの低減を目的に、2016年度より、北海道電力、四国電力、北陸電力の3社によるスマートメーターの共同調達を実施しています。



安全文化の取組み

隠さない風土と安全文化の深化

品質管理を専門とする社長直属の品質管理部および本店各部門の品質管理担当において、隠さない風土と安全文化の深化を推進するとともに、各職場で取り組んでいます。また、社外有識者で構成する「原子力安全信頼会議」(10ページ参照)において定期的に取組み状況を報告し、ご意見をいただいています。

安全に対する基本的な考え

北陸電力は、2007年に判明した志賀原子力1号機の臨界事故を含む発電設備に係る不適切事案を受け、「隠さない風土と安全文化」の構築に向けた再発防止対策について、全社をあげて取り組んでまいりました。

これらの再発防止対策については、2011年3月に、社外有識者で構成された再発防止対策検証委員会において、「隠さない風土と安全文化」が定着したとの評価を受けた後も、従業員一人ひとりが『隠さない風土と安全文化』を決して風化させてはならない』ということに肝に銘じて、日常業務の中で「息の長い取組み」として活動を継続・改善しています。

隠さない風土の深化

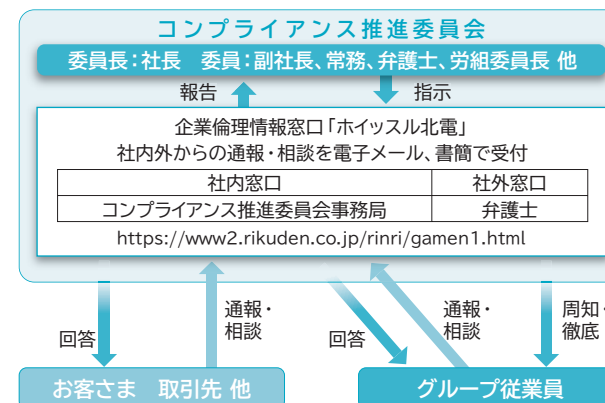
コンプライアンス推進

2002年に、社長を委員長とするコンプライアンス推進委員会を設置し「行動規範」を制定しました。

また、コンプライアンス推進の実効性をさらに高めるため、2003年に企業倫理情報窓口「ホイッスル北電」を設置し、2007年には社外の第三者（弁護士）への通報窓口を追加しました。さらに、2011年には通報対象をグループ会社にも拡大しました。

さらに、経営幹部、管理職、一般社員の各層を対象としたコンプライアンス研修の実施やコンプライアンス推進月間の設定により、意識の浸透・定着に努めるとともに、モラルや安全文化に関する職場毎の集団討議を実施する等、自律的な取組みを通じてコンプライアンスの推進を図っています。

コンプライアンス推進体制



コンプライアンス推進月間

過去の不適切事案を「二度と繰り返さない」という強い決意を全社で共有し、これまでの取組みを通じて定着した「隠さない風土」「安全最優先意識」の風化防止を図るため、6月をコンプライアンス推進月間に設定しています。

月間中には、社長メッセージの社内テレビ放送やコンプライアンス講演会、コンプライアンス推進委員会、グループ会社コンプライアンス推進会議を行っています。また、各職場において共通テーマによる集団討議も実施しています。



失敗事例を言い出しやすい風土の醸成

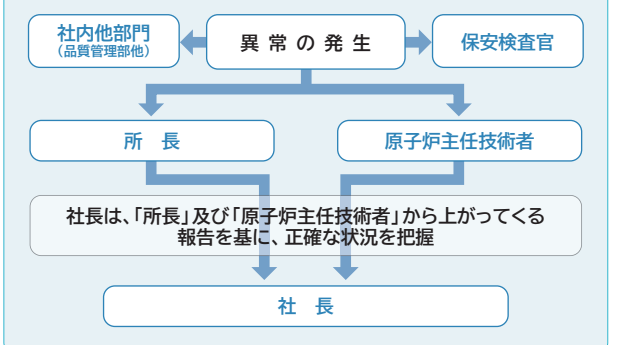
失敗を言い出しやすい風土を醸成するため、社内イントラネットで、ヒヤリハット情報の登録・活用を推進するとともに、経営幹部自らの失敗談を公開しています。

志賀原子力発電所の隠さない企業風土づくり 〈隠さない・隠せない仕組みの構築〉

迅速かつ確実な対外通報・報告体制の整備

- 異常事象は事の大小にかかわらず、通報前の判定余地なく第1報を発電所駐在の保安検査官（原子力規制委員会）や社内関係箇所へも報告しています。
- 社長へ確実に報告できるよう、発電所長及び原子炉主任技術者が直接社長へ報告するルールとし、保安規定に明記しています。
- また、原子炉主任技術者を社長直属とし、独立性を高め、地位と権限を強化しています。

異常発生時の社長への報告の流れ



安全文化の深化

安全最優先の啓発活動

●経営トップからの「安全最優先」の意志表明

社長の安全最優先の意志を、各職場のポスター等で明確に示し、その浸透と定着を図っています。

●経営幹部と現場最前線従業員とのフランク対話

フランクな対話活動を通じて、経営幹部の安全最優先に関する考えや熱意を社内に浸透させ、お互いの意思疎通を高めています。(2015年度：145職場で実施)



フランク対話

●事業所訪問による意見交換

品質管理部は各職場を訪問し、特に発電設備の不適切事案を知らない若年層を中心に、意見交換を行う等、啓発活動を実施しています。

●各職場における安全宣言の唱和

各職場では始業時に、安全最優先と法令遵守に関する行動スローガンを唱和して、従業員一人ひとり自らが意識を高めています。



始業時の唱和風景

原子力部門の安全文化の醸成活動の主な取り組み

●安全文化やモラルに関する職場討議

コンプライアンス意識を高めるため、「原子力安全文化」、「モラル」、「コンプライアンス」、「技術者倫理」に関するテーマで職場討議を実施しています。(2015年度：112回実施)

●安全文化やモラルに関する研修

個々人としての自律性を持って正しい方向に進める技術者を育成するため、専門知識を有する社外講師による研修を実施しています。(2015年度：252名受講)

安全品質の強化

●失敗事例の共有化による再発防止

過去のさまざまな失敗事例から教訓を学び、改善に取り組むことにより、今後の事故・トラブルの再発防止を図っています。

●重大な事故トラブル時の対応

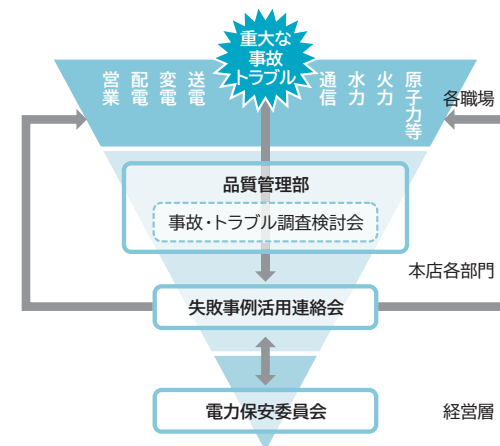
各職場・本店各部門において、背後要因を分析して、再発防止に取り組むとともに、本店の品質管理部へ報告しています。

特に重大な事故トラブルについては、品質管理部が「事故・トラブル調査検討会」を設置して対応しています。

●事故トラブルの共有化の仕組み

重大な事故トラブルについては、本店各部門の課長クラスからなる「失敗事例活用連絡会」で情報共有し、他部門の未然防止に活用しています。また、経営層や本店部所長で構成する「電力保安委員会」で、事故・トラブル情報や部門横断的な課題等を情報共有し、審議・指示しています。

■重大な事故トラブル時の業務フロー



●背後要因分析教育による人材育成

グループ会社を含めた若年者～管理監督者を対象に、各職場・本店各部門で自律的に事故・トラブルの再発防止対策に取り組めるよう計画的に教育しています。



背後要因分析教育の風景

グループ一体となった環境保全の取り組み

CO₂削減、「循環型社会」の形成、生物や自然の恵みに配慮した持続可能な事業活動に取り組んでいます。

電気自動車の有効活用

北陸電力グループでは、2009年度より電気自動車の導入を開始し、2013年度からはプラグインハイブリッド車も含め継続的に導入を進めています。また、電気自動車の一層の利用拡大を図るため、急速充電装置を設置しています。



電気自動車(左:アイミーブ、右:リーフ)



急速充電装置(小松支社)

3Rの積極的な推進

廃棄物の発生量の抑制(Reduce)、再利用(Reuse)、再資源化(Recycle)に取り組んでいます。

●産業廃棄物リサイクル率の向上

北陸電力グループで2015年度に発生した産業廃棄物等の量は105.5万トンで、有効利用に取り組んだ結果、リサイクル率は93.4%となりました。

●石炭灰の有効利用

石炭灰(フライアッシュ、クリンカアッシュ)は主にセメント原料(粘土代替)として有効利用されているほか、コンクリート2次製品や、グラウンド地盤中層材等への有効利用も推進しています。

また、多くのお客さまにご利用いただけるよう供給体制の整備、品質の向上、PR活動に取り組んでいます。

北陸電力グループの日本海コンクリート(株)と共同でフライアッシュ配合コンクリート柱を開発し、2016年4月製造を開始しました。



石炭灰の有効利用コンクリート柱



グラウンド地盤中層材(富山県立富山高等支援学校)

森林保全活動の展開

従業員や家族が一体となって森林保全ボランティア活動に取り組んでいます。

●「水の恵みをありがとう!森に恩返し活動」

北陸電力グループは「北陸地域との共生に向けた活動」として、2008年度から北陸3県5地区で森林保全活動を展開しています。水源かん養[※]やCO₂の吸収等、さまざまな恩恵を与えてくれる森林に感謝の気持ちを込めて、2015年度は639人が参加し、295本の苗木を植樹しました。

下草刈りで発生した伐採木の一部は火力発電所でバイオマス燃料として有効利用しました。



下草刈りの様子(富山地区)

富山県「水と緑の森づくり表彰」受賞

北陸電力富山支店は富山県から「水と緑の森づくり表彰」を受賞しました。

これは、長年にわたる「水の恵みをありがとう!森に恩返し活動」などの優良な森づくり活動が評価されたもので、石井富山県知事から木製の表彰状と副賞を受け取りました。



用語解説 ▶ ※水源かん養：樹木、落葉および森林土壌の働きにより、降水を効果的に地中に浸透させ、長期にわたり貯留・流下することにより、洪水調整、湯水緩和等河川流量の平準化を図る森林が有している機能。

お客さまの声を大切に

お客さまの視点に立ち、ご満足いただける商品・サービスのご提供に努めています。

お客さまサービスの向上

電話によるお申込み受付、お問合せ、ご相談等の年間約44万件に達するお客さまからの声を、「お客さまサービスセンター」が24時間体制で承っており、同センターでは迅速できめ細かなサービスに努めています。

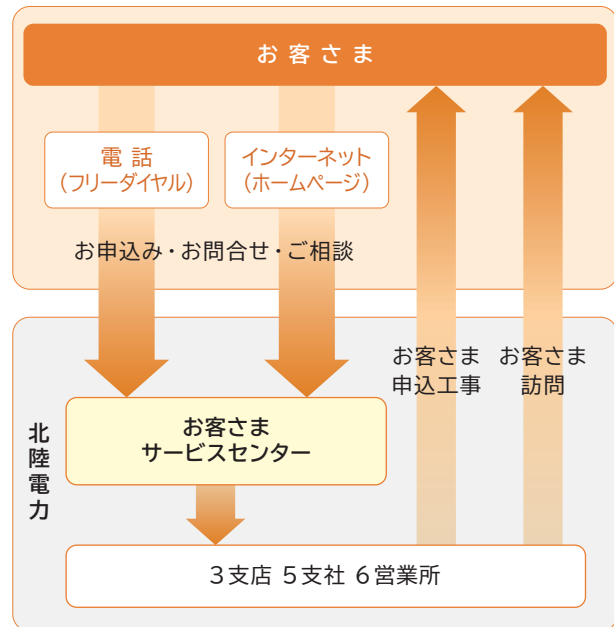
また、各事業所では、「お客さまサービスセンター」で承った、電気に関するお申込み・ご相談への対応や、電力量計の検針等のお客さまにより近い所での業務を行っています。

ご満足いただけるサービスをご提供するため、各種教育を実施し、お客さまへの対応能力の向上を図っています。



お客さまサービスセンター

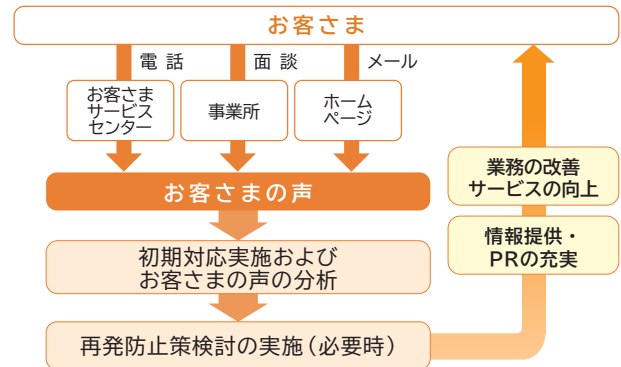
■お客さまサービスセンターの体制



ブルーエコー（お客さまの声）システム

お客さまからの苦情・ご要望に迅速・的確に対応するため、「ブルーエコーシステム」を構築し、サービス向上に努めています。また抜本的な対策が必要な場合には、対応策を全社に水平展開し、再発防止に努めています。

■ブルーエコーシステム



お客さま設備の雷害対策コンサルティング

雷研究等を通して得られた技術や知見をお客さま設備の問題解決に役立てていただくため、雷被害や設備の状況を調査してお客さまニーズに合った雷害対策のコンサルティングを行っています。また、ホームページにリアルタイムの落雷情報や雷害対策事例を掲載する等、雷に関する情報提供も行っています。2015年度は24件のお客さまからの問い合わせにお答えしました。



ホームページ（雷情報）
<http://www.rikuden.co.jp/kaminari/>

個人・法人向けIR活動

個人・法人株主の皆さまに北陸電力の事業活動へのご理解を深めていただくため、地元を中心に訪問活動等を行い、必要な情報を積極的に発信するとともに、皆さまからのご意見を承っています。

2015年度の具体的な取組みとしては、個人株主の皆さまに対し、水力発電所や志賀原子力発電所等の施設見学会（6回）や個別訪問を、法人株主の皆さまには決算説明や意見交換をそれぞれ実施しました。

また、証券会社の営業担当者の方々への会社説明会も開催しました。

さらには、広報誌「北電」(年2回)やデータ集「ファクトブック」の発行やホームページへの情報掲載等、親しみやすくわかりやすいIR活動に努めています。



個人株主の見学会

お客さまのお役に立つ情報の発信

テレビCMや新聞広告、ホームページ等を活用して積極的な情報の発信に努めています。

インフォメーション

お客さまに知りたい情報をタイムリーにお届けしています。

●電気的安全なご使用方法

電気を安全にお使いいただけるよう、ご家庭でできる電気製品の正しいご使用方法を紹介しています。



新聞広告

●各種お知らせや注意喚起

訪問調査や停電時の対応方法等のご案内や、感電事故や詐欺行為等に関する注意点をお知らせしています。



テレビCM

●広報誌「えるふらざ」

北陸地域にお住まいのお客さまへ年4回「えるふらざ」を配布し、ホームページにも掲載しています。2016年4月にリニューアル、北陸電力キャラクター「りくこ」が誕生し、夏号では25周年100号を迎えました。エネルギーやお客さまに役立つ情報等をわかりやすくお伝えしています。



広報誌「えるふらざ」

電気の効率的なご使用

お客さまに省エネの方法や電気のご使用状況についてお知らせしています。

●電気の効率的なご使用方法

エアコン・照明器具等の電気製品の省エネ方法を紹介しています。



ホームページ（家庭でできる電気の効率的な使用方法）
<http://www.rikuden.co.jp/denki-yoho/katei.html>

●でんき予報

予想最大電力やピーク時の供給力、電気の使用実績等、日々の電力情報をわかりやすくイラストで掲載しています。

<http://www.rikuden.co.jp/denki-yoho/>

北陸電力のホームページで停電情報をお知らせしています

北陸電力が電気をお届けしているエリアで停電が発生した際、停電に関する情報をリアルタイムでご確認いただけます。

- 停電情報は約5分間隔で更新します。
- パソコンだけでなく外出先でスマートフォン、携帯電話からもご利用できます。



- ▶パソコン向けページ
<http://www.rikuden.co.jp/teiden/otj010.html>
- ▶スマートフォン向けページ
<http://www.rikuden.co.jp/sp/teiden/otj210.html>
- ▶携帯電話向けページ
<http://www.rikuden.co.jp/m/teiden/otj410.html>

スマートフォン画面イメージ



【ご留意事項】携帯電話(スマートフォンを除く)では地図画像は表示されませんのでご了承ください。本サービスは情報を速やかに提供することを目的としているため、確定的でないことや事実確認の進捗に応じて変更されるもの等が含まれます。<ご提供できないケース>停電が約5分以内によって情報は提供できないことがあります。<ご提供できないケース>停電が約5分以内で復旧した場合、瞬間的な電圧低下の場合、低圧(100Vや200V)設備が起因となる停電の場合、作業に伴う停電の場合、お客さまの建物への引込線断線やお客さま建物の設備不具合に起因する停電の場合、特別高圧のお客さまの停電の場合>また、システムや通信のトラブル等により情報を掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

地域と共に歩む

地域社会の一員として、地域との共生に向けた活動に取り組んでいます。

地域行事への参加

北陸電力グループは、地域の各種イベント・祭礼等に積極的に参加・支援しています。祭礼では富山まつり、南砺利賀そば祭り、じゃんとこい魚津まつり、金沢百万石まつり、七尾港まつり、敦賀まつり等に、多くの従業員が参加して行事を盛り上げています。

また、マラソン大会をはじめとするスポーツイベントや各種行事に、多くの従業員が運営ボランティアとして参加する等、大会の盛り上げに協力しています。



富山まつり

「こども110番の車」運動

北陸電力グループは、社用車に「こども110番の車」ステッカーを貼り、子どもたちが助けを求めてきた場合等に一時的な保護や関係機関への通報を行う「こども110番の車」運動に取り組んでいます。北陸電力を含めたグループ会社9社(約1,450台)が運動に参加しています。



「こども110番の車」ステッカー

地域文化の振興支援

地域における芸術・文化事業の振興への寄与を目的として、2009年10月から、「北陸電力会館 本多の森ホール」(旧石川厚生年金会館)を運営しています。舞台体験機会の提供等を通して、地域の皆さまから親しまれ、地域活性化や文化・芸術活動の振興のお役に立てる運営を目指しています。

また、次世代層の健全な育成や地域の芸術・文化の振興のため、劇団四季「こころの劇場」の北陸で開催される一部の公演を支援しています。

教育活動をサポート

エネルギー・環境問題への正しい理解や、電気・科学に対する関心を深めていただくことを目的に、教育支援活動に取り組んでいます。

出前講座

次世代を担う小中学生や高校生に、エネルギーや地球環境問題を身近なものとして捉え、正しい理解を深めていただくため、社員等が講師として学校に出向く出前授業や、発電所等の見学会を実施しています。

2015年度には出前授業を約140回、見学会を約60回実施し、あわせて延べ約8,200名に参加していただきました。



出前授業の様子(七尾支社)

地域スポーツの振興支援

北陸電力ハンドボール部「ブルーサンダー」によるハンドボール教室、プロサッカークラブ「カタレ富山」と連携したサッカー教室開催等を通じ、子どもたちの健全な育成のお手伝いをしています。

また、北陸電力では、これらを含むスポーツの主催大会も実施しており、2015年度は教室・大会あわせて約12,000名の子どもたちに参加していただきました。

さらに、ハンドボール部の小学生チーム「北陸電力ジュニア・ブルーロケット」は、毎年、全国大会で上位に入賞する活躍を続けています。

引き続き北陸地域のスポーツ振興のお役に立てるよう努めてまいります。



ほくでん カタレサッカー教室

産学官連携活動

技術開発研究所では、大学と共同で系統解析や雷性状の把握・分析に関する共同研究を行い、電力の安定供給に向けた技術開発に取り組んでいます。また、富山大学の「次世代スーパーエンジニア養成コース」等へコーディネーターや講師を派遣し、地域の先端技術等を活かした新産業の創出、育成に向け、産学官連携の強化に取り組んでいます。

■2015年度の大学との共同研究件名

大学	研究件名
北陸先端科学技術大学院大学	スパコンを活用した雷放電シミュレーションの高度化に関する研究
福井大学	低圧連系する太陽光発電のFRPおよび新型単独運転検出方式の動作評価
東京大学	現実的な電力系統モデルの構築に関する研究
東京大学	VHF帯電磁波観測データによる雷放電現象の解明に関する研究
静岡大学	冬季雷性状を考慮した配電線直撃雷事象計算手法に関する研究
名古屋大学	雷雲内電荷分布に基づく雷電流波形の推定精度向上パラメータに関する研究
同志社大学	雷サージ解析モデルの精度向上に関する研究

北陸電力エネルギー科学館「ワンダー・ラボ」

エネルギー科学館「ワンダー・ラボ」は、エネルギーや科学の不思議を体験できる科学館です。スタッフや全国の実験名人たちによるユニークな「科学実験・工作教室」の開催や、展示物に触れながら電気が家庭に届くまでを楽しく学べる「エネルギー教室」の実施等、子どもたちのエネルギーや電気・科学に対する関心を喚起し、科学する心を育むお手伝いをしています。



科学実験教室の様子

公益財団法人北陸電力教育振興財団の運営支援

北陸電力教育振興財団は、1981年の設立以来、北陸三県および岐阜県の一部の高等学校に教育備品を寄贈しています。また、2005年度からは次代を担う高校生の皆さんの将来の夢や目標を定めるきっかけ作りとして、北陸地域においてさまざまな分野で活躍されている方々を講師に迎え、自らの経験談等をご講演いただく「元氣創生塾」も開催しています。2015年度は10校にて実施し、好評を得ました。



元氣創生塾(志賀高校)

原子力の情報公開

原子力発電所に関するさまざまな情報を積極的に公開しています。

地域の皆さまへの情報公開

●ホームページ

志賀原子力発電所の敷地内破砕帯シーム追加調査等を掲載するとともに、志賀原子力発電所構内と周辺で常時測定している放射線データ等についてもリアルタイムで表示しています。加えて、放射線や原子力防災に関する情報も掲載しています。

●「志賀町ケーブルテレビ」での情報提供

北陸電力提供番組「志賀原だより」(映像放送)と「北陸電力からのお知らせ」(文字放送)を通じて、志賀原子力発電所の現況を速やかにお伝えするとともに、アリス館志賀や花のミュージアム フローリイ等のイベント情報を発信しています。



志賀町ケーブルテレビ(志賀原だより)

●志賀原子力だより「ハマナスねっと」

原子力発電所が立地する志賀町において、広報誌「ハマナスねっと」を全てのご家庭に配布しています(隔月)。町内で活躍されている方



ハマナスねっと

や隠れスポットの紹介等、地域の皆さまに身近なテーマを取り上げ、また、志賀原子力発電所に関する情報や発電所で働く従業員、協力会社の方のメッセージ等も掲載するふれあい誌として発行しています。

原子力発電所の環境放射線のモニタリングと情報公開

原子力発電の運転によって周辺に放出される微量な放射線および放射性物質が、環境に影響のないことを確認する周辺環境モニタリングを行っています。

発電所周辺の敷地境界付近に7か所のモニタリングポストを設置し、放射線レベルを常時測定、記録するとともに、中央制御室で集中監視を行っているほか、発電所周辺にモニタリングポイントを12か所、そのほか金沢市と羽咋市にそれぞれ1か所ずつ設置し、3か月ごとの積算線量を測定しています。

また、発電所敷地内外の海水、土壌、農畜産物などを定期的に採取し、これらに含まれる放射性物質の分析・測定をしています。

環境モニタリングは、北陸電力のほか石川県および富山県でも実施し、ホームページで公表しています。また北陸電力および石川県の測定結果は、石川県環境放射線測定技術委員会にて技術的に評価され、さらに石川県原子力環境安全管理協議会で確認・公表されています。

■アリス館志賀

原子力PR施設「アリス館志賀」では、原子力発電のしくみ・必要性や志賀原子力発電所の安全対策の取り組み等について、わかりやすくご説明しています。

また、地域交流や子どもたちの科学する心を育むためのイベント、地元小学生を対象とした科学教室等を行っています。



サイエンスショー

■花のミュージアム フローリイ

志賀原子力発電所に隣接する「花のミュージアム フローリイ」は、地域と共生する発電所づくりを目的とした国のモデル事業として整備された志賀町の施設です。

2014年4月からは、志賀町の指定を受けて北陸電力が管理・運営しています。

四季折々の草花に囲まれた温室や庭園、カフェでは、ゆったりとした癒しのひとときをお過ごしいただけます。また、地域共生活動として、クラフト教室や植栽体験等も行っています。



保育園児による植栽体験

働きやすい職場づくり

従業員一人ひとりがやりがい・達成感を感じつつ、安心して働くことができるよう、さまざまな制度・仕組みを整備し、働きやすい職場づくりを推進しています。

女性の更なる活躍やダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランス(WLB)の推進

女性従業員がより意欲を持って働くことができるよう職域を拡大してきており、営業・地域広報・燃料調達等の事務部門や土木・配電等の技術部門で、多くの女性従業員が能力を発揮しています。

女性の更なる活躍やダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスの推進に向け、2015年に専任組織「プロGRESS推進チーム」を設置し、男女ともに働きやすい職場づくりを推進しています。2015年10月には、内閣府が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に社長自らが賛同しました。

また、女性役職者数については、下記のとおり目標を設定し、取り組んでいます。



「2020年を目途に2015年(24名)の3倍程度(約70名)」を目指す

※これまで目指してきた「2016年を目途に2013年(14名)の2倍程度(約30名)」は達成済み

具体的な取組みとしては、女性向けキャリア育成研修、ロールモデル紹介、他企業との女性異業種交流会、育児支援関連制度の充実等、女性従業員の声を反映した取組みを精力的に実施していきます。



社長と女性従業員との座談会

女性活躍にかかわる受賞・認定

女性活躍やワーク・ライフ・バランス推進に向けた北陸電力の取組みが認められ、2015年9月に富山県より「元気とやま!仕事と子育て両立支援企業表彰」を受賞したほか、2016年1月に石川県より「いしかわ男女共同参画推進宣言企業」、2016年6月に福井県より「ふくい女性活躍推進企業プラス+」の認定を受けました。

総実労働時間の短縮

働き方にメリハリをつけることによる心身のリフレッシュや業務効率の向上を図るため、全社をあげて休暇取得の促進やマイナスフレックス制度の有効活用等による総実労働時間の短縮に取り組んでいます。

育児・介護休業制度

子育てや介護が必要な従業員に対し、育児・介護休業制度を整備しています。

2015年度は、女性従業員の育児休業制度活用比率が100%(出産者14名)となっており、さらに男性従業員1名がこの制度を活用しました。

また、子育てや介護をしながら働き続けることができるよう、育児・介護短時間勤務制度や子の看護休暇制度、介護休暇制度を制定しています。



育児休業復帰セミナー



北陸電力 石川支店 営業部営業担当 宮下 愛美



育児休業制度を利用して

私は第一子・第二子の出産後、約1年半ずつ育児休業制度を利用しました。日々成長する子供の姿を間近で感じることができ、有意義な育児期間を過ごすことができました。また職場復帰前には、育児休業取得者を対象としたセミナーに参加したことにより、復帰後のイメージをつかむことができました。

復帰後は、職場の皆さんや、同じく育児と仕事を両立されている先輩方に支えられ、毎日楽しく業務を行っています。

次世代育成支援

厚生労働省が進める少子化対策を受け、従業員が仕事と子育てを両立させ、能力を十分発揮できる活力ある働きやすい職場環境を作るための行動計画を策定し、取り組んできた結果、第3期(2011～2012年度)の取組みで、2013年5月28日に富山労働局より、次世代育成支援対策に取り組む企業として認定され、次世代育成支援対策法に基づく認定マーク(愛称「くるみん」)を取得しました。

現在は、第5期行動計画(2015～2016年度)を策定し、配偶者出産休暇の付与日数増や育児短時間勤務者の短時間勤務期間の延長等制度改定を行い、支援策の拡充に取り組んでいます。



次世代育成支援対策推進法に基づく厚生労働大臣認定マーク

収支状況/電気料金

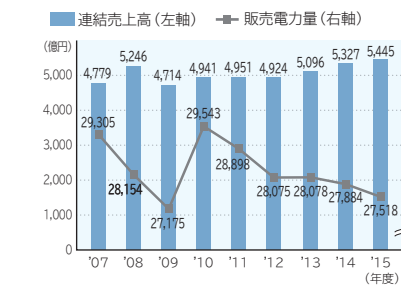
安全最優先を大前提とした効率的な事業運営を行っています。

2015年度 決算(連結)

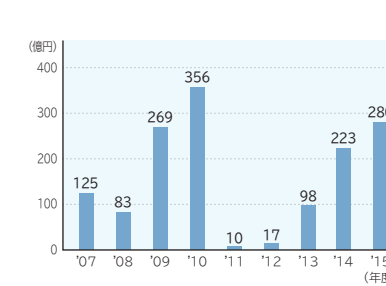
売上高(営業収益)は、電気事業において販売電力量が減少したものの、北陸電気工事(株)の連結子会社化等から、前年度に比べ118億円増の5,445億円となり、これに営業外収益を加えた経常収益は110億円増の5,475億円となりました。

また、経常利益は、電気事業において販売電力量の減少や石炭火力発電所の稼働減はあったものの、水力発電量の増加や設備関連費の減少に加え、引き続き経費全般にわたる効率化に努めたこと等から、前年度に比べ57億円増の280億円となりました。これに、湯水準備金を引き当て、法人税等を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度に比べ39億円増の128億円となりました。

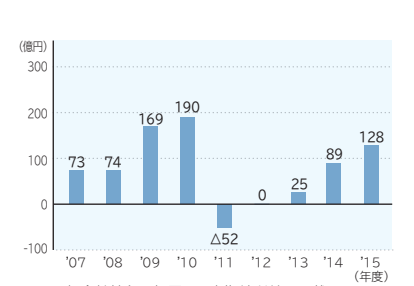
●連結売上高/販売電力量



●連結経常利益



●連結当期純利益



*親会社株主に帰属する当期純利益を記載

電気料金について

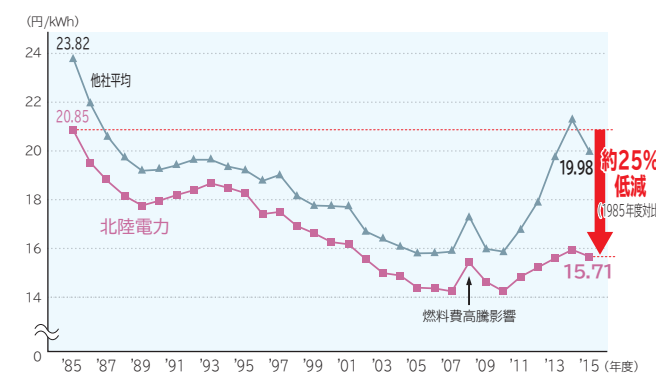
電力の安定供給を確保しつつ、経営全般にわたる継続的な効率化に取り組み、1986年以降、計13回の値下げを行い、低廉な電気料金を維持しています。

〈参考〉電力小売部分自由化以降の料金改定

2000年10月	5.57%の値下げ
2002年10月	5.32% "
2005年4月	4.05% "
2006年7月	2.65% "

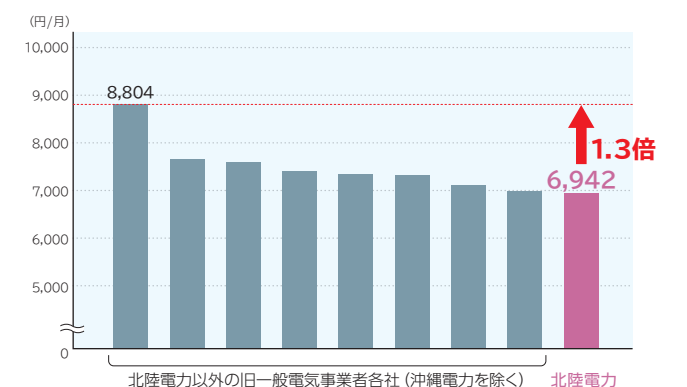
*値下げ率は小売規制部門平均

●販売単価推移



販売単価:電灯電力料の合計を販売電力量で割った単価
他社平均:沖縄電力を除く旧一般電気事業者8社の平均

●従量電灯のモデルによる各社比(当社試算値)



【当社試算の前提条件(2016年6月分)】
・基本料金制の場合:従量電灯B、契約電流30A、使用量300kWh/月
・最低料金制の場合:従量電灯A、使用量300kWh/月
・初回口座振替割引額(北海道電力、東北電力除く)
・再生可能エネルギー発電促進賦課金、燃料費調整額および消費税等相当額を含む

志賀原子力発電所の停止が継続し、厳しい電力需給や収支状況が続いていますが、まずは、志賀原子力発電所の早期再稼働の実現に向け、新規規制基準への適合性確認審査の場で、敷地内シームに関する北陸電力の調査結果を科学的・合理的に説明し、再稼働へのステップを着実に進めるとともに、発電所における安全性向上工事を安全・確実に進め、地域の皆さまからご理解いただけるよう努めてまいります。

その上で、引き続き安全最優先を前提とした経営効率化に最大限取り組み、可能な限り現行料金水準の維持に努めてまいります。

北陸電力グループ

お客様の暮らしやビジネスに密着した事業を展開しています



総合エネルギー

北陸電力(株)
電気事業

日本海発電(株)
電気の卸供給

黒部川電力(株)
電気の卸供給

富山共同自家発電(株)
自家用電力の発電

北陸エルネス(株)
LNG(液化天然ガス)の販売

北電パートナーサービス(株)
電力設備の保守・電力関連施設の運営



電気・エンジニアリング

北陸発電工事(株)
火力・原子力発電設備の保守・工事

北電テクノサービス(株)
水力発電・変電設備の保守・工事

日本海建興(株)
建築・土木・舗装工事の設計・施工

北陸電気工事(株)
電気工事、情報通信工事、
空調・給排水工事

北電技術コンサルタント(株)
土木・建築工事などの調査・設計・監理、
測量、地質調査、補償コンサルタント



情報通信

北陸通信ネットワーク(株)
広域イーサネットサービス[HTNet-Ether]、
法人向けインターネット接続サービス[HTCN]

北電情報システムサービス(株)
情報システム開発・保守、
インターネット接続サービス[FITWeb]、
クラウドサービス[FIT-Cloud]

(株)パワー・アンド・IT
データセンター事業



環境・リサイクル

日本海環境サービス(株)
環境調査・測定・分析
(変圧器など絶縁油試験・分析、放射能分析など)、
環境コンサルティング、環境緑化の設計・施工

(株)ジェスコ
機密・保存文書のリサイクル・保管、
紙製品類の販売

(株)プリテック
プラスチックリサイクル



生活・オフィス

北電産業(株)
不動産の賃貸・管理、人材派遣、
リース、ネットショップ「百選横丁」、
介護・福祉事業

(株)北陸電力リビングサービス
省エネで快適な暮らしのご提案、
200ボルト機器のアフターサービス

北陸電気商事(株)
電柱広告、旅行業



製造

日本海コンクリート工業(株)
コンクリートポール・パイルの製造・販売、
廃ポールリサイクル

北陸計器工業(株)
電力量計等の製造・修理・試験、
証明用電力量計の販売

北陸エナジス(株)
配電用開閉器等の製造・販売

北陸電機製造(株)
変圧器・配電盤の製造・販売

北陸電力株式会社

〒930-8686 富山市牛島町15番1号
TEL.076-441-2511(代表) / FAX.076-405-0103

<http://www.rikuden.co.jp>



環境にやさしい植物油
インキを使用しています。



環境に配慮した「水なし印刷」
で印刷しています。



里山物語

この用紙は間伐材を中心とした国産材を原料として生産されて
います。用紙価格の一部は里山再生・保全団体の活動をサポート
するために使われ、生物多様性の保全と地球温暖化対策の両面
で社会貢献することができます。

2016年7月発行